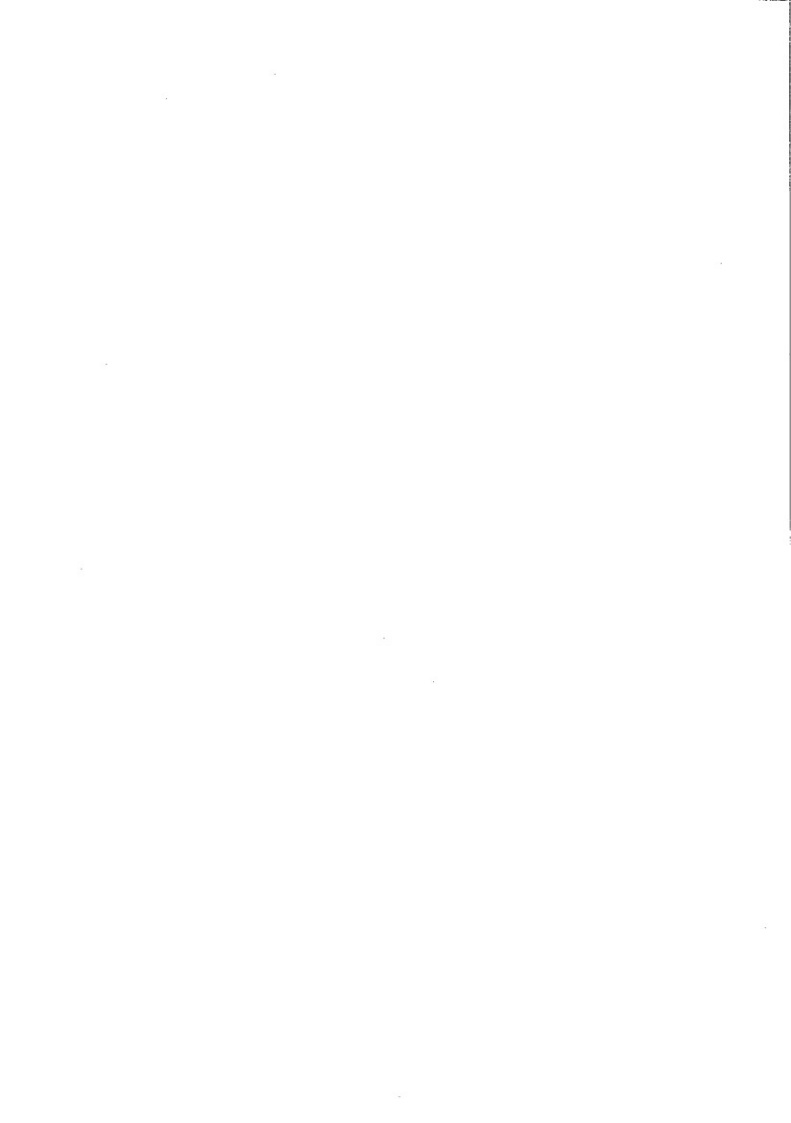


大阪府埋蔵文化財調査報告2009-1

堀 遺 跡

—都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会



堀 遺 跡

—都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

序 文

堀遺跡は、松原市天美南5丁目にある古墳時代から中世にかけての集落遺跡です。現在までの発掘調査で、飛鳥時代や奈良時代の大規模な掘立柱建物跡群、中世の水田跡などが発見されています。

大阪府教育委員会では、都市計画道路堺港大堀線整備事業に先立ち、平成15年度から平成18年度に発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代後期の溝や奈良時代の轍跡、木柵井戸、平安時代から中世にかけての井戸・溝などの遺構が検出され、神功開宝、土馬、瓦、製塩土器などの珍しい遺物が多数出土しました。これらの遺構・遺物は、当地域の歴史を解明していく上で、かけがえのない貴重な資料になるものと思われまます。

本調査の実施にあたっては、地元の方々をはじめ、大阪府都市整備部、松原市教育委員会等々の関係各位に多大なご指導とご協力を賜りました。厚く感謝いたしますとともに、今後とも本府文化財保護行政により一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成22年3月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長 野口 雅昭

例 言

1. 本書は、大阪府都市整備部から依頼を受け、大阪府教育委員会が実施した都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う、松原市天美南5丁目所在、堀遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ技師地村邦夫、主査西口陽一が担当し、平成15～18年度に実施した。遺物整理は、平成19・20・21年度に調査管理グループ主査三宅正浩・副主査藤田道子が担当した。
3. 本調査の調査番号は、平成15年度が03063、平成16年度が04065、平成17年度が05003・05032、平成18年度が06013である。
4. 本書に掲載した遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
5. 本調査の写真測量は、平成17年度が富士測量株式会社、平成18年度がアジア航測株式会社大阪支店に委託した。撮影フィルムは各社が保管している。
6. 調査で作製した記録資料と出土遺物は大阪府教育委員会で保管している。
7. 発掘調査・遺物整理にあたって、松原市教育委員会芝田和也・岡本武司氏、奈良文化財研究所渡辺晃宏氏から貴重なご助言・ご協力を得た。記して感謝する。
8. 本書は地村・西口が執筆、編集した。
9. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した経費は、すべて大阪府都市整備部が負担した。
10. 本報告書は、300部作成し、一部あたりの印刷単価は、1,363円である。

本文目次

序文

例言

目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査成果	6
第1節 確認・試掘調査	6
第2節 A区の調査	9
第3節 B区の調査	21
第4節 C区の調査	53
第5節 D区の調査	62
第6節 E区・F区の調査	69
第4章 まとめ	75

挿図目次

第1図 調査区位置図	2
第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/10000)	3
第3図 明治18年仮製地形図による調査区位置図	4
第4図 昭和36年大阪府作製地形図による調査区位置図	4
第5図 確認・試掘調査トレンチ配置図	6
第6図 調査区地区割図 (S=1/1600)	9
第7図 A～D区十層柱状模式図 (垂直S=1/40)	11
第8図 A区第1・2・3・4面遺構平面図 (S=1/250)	12
第9図 A区第1面自然河川4出土遺物 (S=1/3)	13
第10図 A区第3面井戸11・溝30断面図 (S=1/20・1/40)	14
第11図 A区第3面井戸11出土遺物 (S=1/3)	15
第12図 A区第3面井戸11出土遺物 (S=1/3)	16
第13図 A区第3面井戸11出土遺物 (S=1/3)	17
第14図 A区第3面溝30出土遺物 (S=1/2・1/3)	18
第15図 A区第3面溝30、第4面下層出土遺物 (S=1/3)	19

第16図	A区第2面直上、第2・3面下層出土遺物 (S=1/3)	20
第17図	B区第1面溝1・2・521断面図 (S=1/40)	22
第18図	B区第1・2面遺構平面図 (S=1/250)	23・24
第19図	B区第1面井戸501・503・505、溝521出土遺物 (S=1/3)	25
第20図	B区第1面溝521・井戸524出土遺物 (S=1/3)	26
第21図	B区第1面溝13・533、井戸524・528・531・532出土遺物 (S=1/3)	27
第22図	B区第1面溝542、井戸534・535・536・538出土遺物 (S=1/3)	28
第23図	B区第1面溝1、井戸構544・546、同面下層出土遺物 (S=1/3)	29
第24図	B区第1面溝2・13、井戸10・18、第2面下層、第3面直上、 第3面下層出土遺物 (S=1/2・1/3)	30
第25図	B区第3・4面遺構平面図 (S=1/250)	31・32
第26図	B区第4面土坑174平面・断面図 (S=1/20)	33
第27図	B区第4面畦畔184・185断面図 (S=1/40)	33
第28図	B区第4面直上、同面畦畔184・185、溝206・208・233・620・624・630、 側溝出土遺物 (S=1/2・1/3)	34
第29図	B区第5・6面遺構平面図 (S=1/250)	35・36
第30図	B区第5面畦畔248、鑿溝236・658・659、同面下層出土遺物 (S=1/3)	37
第31図	B区第5面下層、側溝出土遺物 (S=1/3)	38
第32図	B区第6面井戸269平面・断面図 (S=1/40)	39
第33図	B区第6面溝259出土遺物 (S=1/3)	40
第34図	B区第6面溝259・263出土遺物 (S=1/3)	41
第35図	B区第6面土坑256、溝265、井戸269出土遺物 (S=1/2・1/3)	42
第36図	B区第6面井戸269出土遺物 (S=1/3)	43
第37図	B区第6面畦畔255、土坑270、溝259・671・672・674・676・678、 ピット668・681・682遺構出土遺物 (S=1/3)	44
第38図	B区第6面下層出土遺物 (S=1/3)	45
第39図	B区第6面溝259、第7面土坑271、ピット276・279・280・291、 同面下層出土遺物 (S=1/2・1/3・1/6)	46
第40図	B区第7・8面遺構平面図 (S=1/250)	49・50
第41図	B区第7面竪立柱建物781・782・783平面・断面図 (S=1/100)	51
第42図	B区第7面ピット696・701・704・707・723・725・726、 溝742出土遺物 (S=1/3)	52
第43図	C区盛土、第1面井戸214、溝14・201、第1面下層出土遺物 (S=1/3)	54
第44図	C区第1・2面遺構平面図 (S=1/250)	55・56

第45図	C区第3・4面遺構平面図 (S=1/250)	57・58
第46図	C区第1面土坑256、第2面直上、同面下層、第3面下層、 第4面下層出土遺物 (S=1/2・1/3)	60
第47図	C区第1面溝40・65・66断面図 (S=1/20)	61
第48図	D区第1・2面遺構平面図 (S=1/250)	63
第49図	D区第1面溝2・26断面図 (S=1/20)	64
第50図	D区第1面溝2・16、第4面溝224、第2面下層、 第3面直上出土遺物 (S=1/2・1/3・1/4)	65
第51図	D区第3・4面遺構平面図 (S=1/250)	67
第52図	E区・F区調査区位置図	69
第53図	E区平面・断面図	70
第54図	F区平面・断面図	72
第55図	E区包含層出土遺物	74
第56図	上：確認・試掘調査No.9トレンチ全景(東から)、下：同層検出状況(西から) ..	74
第57図	堀遺跡変遷図 (S=1/1100)	77

表 目 次

第1表	調査一覧表	1
第2表	確認・試掘調査結果一覧表	7

図 版 目 次

図版1	A区遺構(1)
図版2	A区遺構(2)・B区遺構(1)
図版3	B区遺構(2)
図版4	B区遺構(3)
図版5	B区遺構(4)
図版6	B区遺構(5)・C区遺構(1)
図版7	C区遺構(2)
図版8	C区遺構(3)・D区遺構(1)
図版9	D区遺構(2)
図版10	E区遺構
図版11	F区遺構

- 图版12 A区第1面遗物 第2·3·4面下層遺物
- 图版13 A区第1面遺物
- 图版14 A区第1·3面遺物
- 图版15 A区第3面遺物
- 图版16 A区第3面遺物
- 图版17 A区第3面遺物
- 图版18 B区第1面遺物
- 图版19 B区第1·4面遺物
- 图版20 B区第4面遺物 第5面下層遺物
- 图版21 B区第5面遺構·同面下層遺物
- 图版22 B区第5面下層遺物
- 图版23 B区第5·6面遺物
- 图版24 B区第5面下層遺物
- 图版25 B区第6面遺物
- 图版26 B区第6面遺物
- 图版27 B区第6面遺物
- 图版28 B区第6面遺物
- 图版29 B区第6面遺物
- 图版30 B区第6面遺物
- 图版31 B区第6面·同面下層遺物
- 图版32 B区第6面下層遺物
- 图版33 B区第7面遺物
- 图版34 B区第7面遺物
- 图版35 B区第7面·同面下層遺物
- 图版36 C区第1·2面遺物 第1面包含層遺物
- 图版37 C区第5面遺物 第2·3·4面下層遺物
- 图版38 D区第1·3·4面遺物 第2·3面下層遺物
- 图版39 E区包含層遺物

第1章 調査に至る経過

本発掘調査は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部からの依頼を受け、平成15～18年度に松原市天美南5丁目で行ったものである。

調査原因の都市計画道路堺港大堀線建設工事とは、松原市の西部、西除川右岸の天美南から西除川左岸の天美我堂にかけて総延長約1.2kmに幅16～27mの道路を新設するものである。工事の実施に先立って、工事予定地内北西部に古墳時代～中世の集落跡である堀遺跡（堀A遺跡）が発見されていることから、平成15年9月、事業主体である高田林土木事務所と大阪府教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、埋蔵文化財の有無確認のため、用地買収がほぼ完了した西除川から近鉄南大阪線の間について試掘・確認調査を実施することとした。平成16年3月に行なわれた大阪府教育委員会による確認・試掘調査では、道路予定地の両サイドに設定された10箇所のトレンチ（2.0m×260.0m）すべてから古墳時代から中世の遺物が出土し、古代のピットや溝・水田跡などの遺構も多数検出されたことから、堀遺跡の遺跡範囲がさらに工事予定地内南東部に発見されていた堀B遺跡も含めて大きく広がることが判明した。その結果をもとに、遺跡範囲の拡大の手法続きが執られると共に、協議がもたれ、道路建設工事が不可避なことから、道路建設工事に先立って、工事区域の全面発掘調査を必要とする措置が決まった。平成16年度には、近鉄南大阪線をオーバーパスする部分の橋脚部分を2箇所発掘調査することとなった（西側調査区をE区、東側調査区をF区とした）。平成17年度には、市道天美駅南北線から西側の市道天美南8号線までの道路範囲を発掘調査することとなった（西側調査区をC区、東側調査区をD区とした）。平成18年度には、市道天美南8号線から主要地方道大阪狭山線までの道路範囲を発掘調査することとなった（西側調査区をA区、東側調査区をB区とした）（第1表、第1図）。

以上の4年間、計5次にわたる発掘調査の結果を報告するのが、本報告書である。

年次	年度	種類	調査番号	調査面積	調査期間	調査地区	担当	主な遺構・遺物
				(㎡)				
1次	H15	確認・試掘調査	03063	530	H16.3.8～ H16.3.25	A区～F区	西口隆一	轆・水田跡・ピットなど。
2次	H16	発掘調査	04065	117	H17.2.7～ H17.3.15	E区・F区	西口隆一	土坑・ピット・牛の足跡など。
3次	H17	発掘調査	05003	2,466	H17.4.18～ H17.7.25	D区	地村邦夫	井戸・土坑・溝など。
4次	H17	発掘調査	05032	1,614	H17.9.1～ H18.3.20	C区	地村邦夫	道路状遺構・轆・水田など。
5次	H18	発掘調査	06013	1,788	H18.6.16～ H19.3.13	A区・B区	地村邦夫	掘立柱建物跡・井戸・畦畔など。
計				6,506				

第1表 調査一覧表



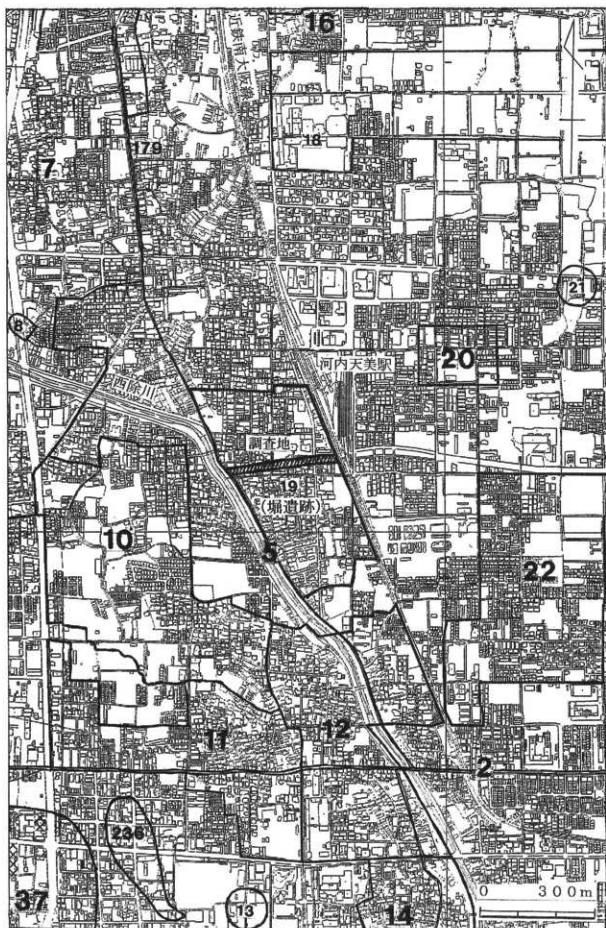
第1図 調査区位置図

第2章 遺跡の位置と環境

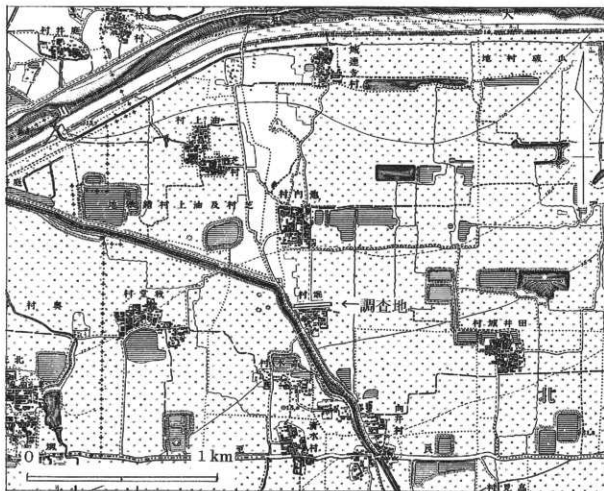
堀遺跡(第2図19)は、大阪府松原市天美南5丁目に所在する。遺跡の標高は、13mで、周囲は、近年に至るまで宅地であった(第3・4図)。遺跡の立地は、低位段丘上にあつて、上層は遺跡のすぐ西側を北流する西除川によって形成された沖積層である。遺跡の北東には、近鉄南大阪線河内天美駅があり、南800mには、飛鳥時代以来の歴史のある長尾街道(第2図2)が東西に走っている。松原市教育委員会や大阪府教育委員会による調査の結果、遺跡の範囲は東西500m、南北560mと判明している。遺跡の時期は、古墳時代後期に始まり、平安時代や鎌倉時代～近世の遺物も出土しているが、中心となるのは奈良時代のものである。

堀遺跡では、これまでの松原市教育委員会の調査によって、近鉄南大阪線と西除川との間に広がる古墳時代から中世にかけての集落遺跡で、古墳時代の掘立柱建物跡や溝跡のほか、飛鳥時代の巨大な柱穴を有する掘立柱建物跡やそれを囲む溝跡、柵列のほか、奈良時代の掘立柱建物跡や井戸跡も発見されていて、豪族の居館跡か官衙跡と考えられている。

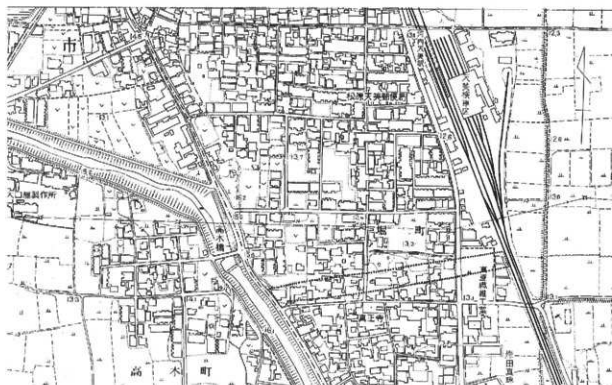
堀遺跡の周辺には、堀遺跡の西側に接して西除川右岸堤防上に中世～近世の下高野街道(5)があるほか、多数の遺跡が発見されている。北側600mには、池内遺跡(18)がある。近年、阪



第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/10000)



第3図 明治18年仮製地形図による調査区位置図



第4図 昭和36年大阪府作製地形図による調査区位置図

神高速道路大和川線の建設工事に先立つ（財）大阪府文化財センターによる発掘調査で、弥生時代前期の集落跡や水田跡、平安時代中期の屋敷跡などが多数検出された集落遺跡である。この遺跡内では、阪南大学敷地内から弥生時代中期の自然河川跡も発見されている。池内遺跡の北側、大和川堤防の南側には、城連寺遺跡（16）が発見されていて、弥生土器・須恵器・瓦器が出土していて、弥生時代から中世に至る集落遺跡と考えられている。

掘遺跡の北東側220mには、古代の官道である「難波大道」が発見されたことで有名な大和川今池遺跡（7）がある。古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物群や中世の豪族居館跡などの多数の遺構が検出されている。この遺跡内には、小丘が近年まで残っていた、全長30m程度の方後円墳と推定されている狐塚古墳跡（8）もある。

掘遺跡の西側80mには、高木遺跡（10）がある。これまでの調査で、珍しい海獣葡萄酒や弥生時代中期・後期の竪穴住居跡や奈良・平安時代の官衙か豪族の居館跡と思われる掘立柱建物跡群や中世屋敷跡のほか、奈良時代の条里里境に相当する大畦畔跡などが発見されている。また、高木遺跡の北側、江戸時代、大和川改修工事に伴って付け替えられた西除川堤防までの所には、明治18年の仮製地形図（第3図）によると小古墳状のものが3基表示されていて、ミニ古墳群の存在が推定されるのかも知れない。

掘遺跡の南西850mには、旧石器時代のナイフ形石器が多量に出土したことで有名な南花田遺跡（37）がある。古墳時代後期の二重の溝で囲われた大型掘立柱建物跡や畑跡が発見され、奈良時代の井戸からは、人物墨西土器などの珍しい遺物が出土している。中世の溝・欄などで囲われた掘立柱建物跡と井戸・土坑から構成された屋敷地および条里坪境溝なども発見されている。

掘遺跡の南には、古墳時代から中世の集落跡である清水遺跡（11）がある。古墳時代後期の溝で囲われた掘立柱建物跡や条里の坪境と考えられる奈良時代の溝跡などが発見されている。その清水遺跡の東側には、平安時代後期創建とされる永興寺があったとされる布忍遺跡（12）があり、多数の軒丸瓦などが発見されている。その清水遺跡や布忍遺跡のさらに南側には、本格的な調査が行われておらず、内容がまだによく分からない東花田遺跡（236）や古墳時代の集落跡と推定されている鍵田遺跡（13）、縄文時代から中世の集落跡である南新町遺跡（14）がある。南新町遺跡では、飛鳥時代の金銅製耳環やヒスイ原石、平安時代の石帯（丸帯）などの珍しい遺物も発見されている。

掘遺跡の東270mには、縄文時代～中世の集落跡である東新町遺跡（22）があり、古墳時代前期の方形周溝墓や平安時代末期の塀で囲われた掘立柱建物跡などが発見されている。また、この遺跡からは、縄文時代晩期から弥生時代前期の噴砂（液状化現象）の痕跡が確認されている。

掘遺跡の北西270mには、弥生時代から古墳時代の集落跡と推測されている天美南遺跡（20）があり、弥生時代中期の掘立柱建物跡などが発見されている。天美南遺跡のさらに北東側には、瓦器が出土し、中世の集落跡と考えられている天美東1丁目遺跡（21）が発見されている。

第3章 調査結果

第1節 確認・試掘調査

1 調査方法

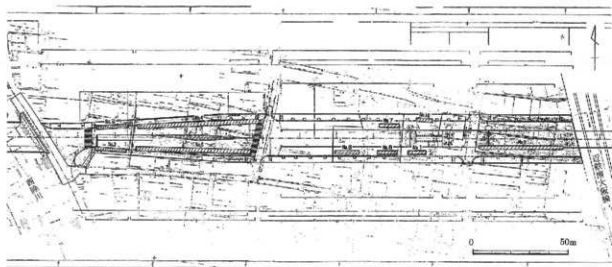
事業対象区域に調査区（トレンチ）を10箇所設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しつつ、機械・人力で掘り下げ、確認・試掘調査を実施した（第2表）。

2 調査結果

No.1 トレンチでは、その西端部の地表下70cmに南北朝～室町時代の土坑2基、ビット2基が検出された。この時の地山面は、灰茶色粘土。以下、途中、厚さ12cmの自然河川堆積層である灰褐色細砂層があるが、地表下1.6mで最終地山面である黄灰色粘土層に達する。

No.2 トレンチでは、その西端部では地表下40cmまでは現代の盛土で、そのすぐ下に灰茶色粗砂層が検出された。地表下120cmまで掘削したが、底は出なかった。トレンチの西側を南北に流れる西除川の旧流路跡と考えられた。内部から、ローリングを受けた土師器・須恵器・瓦・瓦器片等が出上した。自然河川の幅はトレンチ西側10mほどで、それより東側は粘土層であった。トレンチ中央部では、やはり地表下40cmまでは新盛土であったが、その下に近世耕土層と推定される厚さ14cmの暗灰緑色粘質砂層がある。その下に洪水堆積の砂層が10～20cmあって、その下に中世遺物を含んだ遺物包含層が3層にわたってある。最下層が一番土器量が多い。その下に遺構が検出された。トレンチ東端では、地表下1.2mに鎌倉時代の土師器羽釜や瓦器碗・石の入った土坑や遺物包含層が検出された。地山は灰色砂礫層・灰茶色粘土層であった。

No.3 トレンチでは、現代アスファルトの下に新盛土がある。その下に、旧の耕土層がある。その下は、トレンチ西半部は、すぐに自然河川。恐らく、西除川の氾濫堆積層か。地表下1.2mま



第5図 確認・試掘調査トレンチ配置図

で掘削したが、底は出なかった。トレンチ東半部は、40～50cmの自然堆積層があって、中世土器片が混じっている。下層に、トレンチ東端部だと茶褐色粘土層が最下層にあって、やはり中世土器（瓦器）が包含される。地表下1.2mで地山である灰茶色粘質細砂層に達する。トレンチ東端から4～9m付近では、地表下90cmで遺構が検出され、炭や灰・土器片の詰まったビット2基や土器細片を多数包含した大土坑（？）などが検出された。

No.4 トレンチは、長さ66mである。トレンチ東半部は、厚さ70～90cmの新盛土があって、多量のゴミやガラが含まれていた。トレンチ中央部では地表下70cmでL字形に曲がった幅2.7mの溝を検出した。溝の肩部から土師器皿、焼石が出土した。トレンチ西端部で、下層確認のため深掘りすると、地表下1.6mで幅1.3m以上の深さ0.4m以上の溝と幅1.8m深さ0.4m以上の共に南北溝が検出された。後者の溝の埋土は、茶褐色粘土・灰色粘土などがブロック状に混じり、黒色土師碗・土師器皿・台付鉢などが出土した。平安時代前期の溝と考えられた。

No.5 トレンチは、長さ63mである。トレンチ東半部では、地表下60～80cmの新盛土の下、平安時代の土師器碗や鎌倉時代の瓦器碗を含む20～30cmの遺物包含層があり、その下に溝や径30cmのビットなどが検出された。さらに、トレンチ内の深掘りで遺構の下層80cmに、古墳時代後期の須恵器を包含した黒灰色粘土層が地山である黄褐色粘土層上に厚さ15cmで検出された。トレンチ内の各所に実施した深掘りで、中世の遺構面からさらに下層に炭や奈良時代の須恵器・土師器・製塩土器等を多数包含した厚い（20～40cm）遺物包含層が検出された。最終的には、地表下2.3mで黄褐色の粗砂層・黄褐色粘土層が出てきて、地山と考えられた。

No.6 トレンチでは、新盛土が地表下60～80cmの厚さであって、その下に旧の耕土層がある。その下10～15cmに中世遺物包含層があった。包含層の下からは、トレンチ西側で、長さ1m幅50cmほどの土坑が2基検出された。土坑の埋土は、灰褐色粘土がブロック状に混じっており、瓦器・土師器片が出土したことにより、鎌倉時代の遺構と判明した。トレンチ内の深掘りで、遺構のさらに1.5m下の暗茶褐色粘土層からも平安時代の土師器片が出土したことにより、地表下2.2

トレンチ番号	長さ (m)	幅 (m)	調査面積 (㎡)	検出遺構	出土遺構	内容	時代
No.1	10	2	20	ビット・土坑	土師器・火鉢	集落跡	南北朝～室町
No.2	17	2	34	土器入りビット・自然河川	瓦器・土師器・瓦	集落跡・自然河川	鎌倉
No.3	17	2	34	ビット・大土坑?	須恵器・瓦器・土師器	集落跡・自然河川	鎌倉
No.4	66	2	132	溝	黒色土器・土師器・瓦器・焼石	集落跡	平安～鎌倉
No.5	63	2	126	ビット・溝	須恵器・土師器・瓦器	集落跡	古墳～鎌倉
No.6	15	2	30	土坑	土師器・瓦器	集落跡	平安～鎌倉
No.7	8	2	16	なし	瓦器・土師器	集落跡	平安～鎌倉
No.8	11	2	22	なし	須恵器・土師器	集落跡	鎌倉
No.9	44	2	88	堀・水田跡	瓦器・土師器・焼石	水田跡	鎌倉
No.10	9	2	18	なし	土師器	集落跡	鎌倉
計	260	2	520				

第2表 確認・試掘調査結果一覧表

mまで遺構面の下がる事が判明した。地山は、暗灰茶色粘質土層であった。

Na7トレンチでは、盛土が40～60cmあり、その下に厚さ20～40cmの灰茶色粘質土層があり、その下に10～20cmの瓦器小皿を含む遺物包含層を検出した。トレンチ内を部分的に深掘りすると、地表下1.8mで瓦器碗・土師器羽釜を含む厚さ12cmの黄茶色粘土層があり、遺物包含層と考えられた。地山は黄灰色粘土で、20cm以上さらに深掘りしたが、洪積層であった。

Na8トレンチでは、地表下70cmで、厚さ20cmの遺物包含層である灰褐色粘質土層が検出された。須恵器や土師器片が出土した。トレンチ内を部分的に深掘りすると、地表下1.8mで、下層の遺物包含層と考えられた厚さ10cmの暗灰褐色粘質細砂層があった。その下は、茶灰色粘土層・灰黄色粘土層で、乾痕もあり、いずれも洪積段丘層と考えられた。

Na9トレンチは、長さ44mである。地表下40～60cmまでは新盛土である。その下に厚さ10～13cmの暗黒色粘質土層がある。近世以降の染付碗片が含まれることから、近世以降の水田耕土層と考えられた。この水田耕土層の存在が、その存在のない本トレンチより西側の調査区と大きく異なるところである。この水田耕土層の下に厚さ2～14cmの暗青灰色～茶褐色粘質土層があり、床土層と考えられた。その床土層の下に厚さ50～60cmの灰黄色～灰緑色粘土層があり、瓦器碗・土師器小皿・土師器羽釜などの中世遺物が出土したことから、中世の遺物包含層と考えられた。トレンチ西部部ではその下に厚さ7、8cmの暗灰褐色粘質土層がほぼ水平に堆積しており、奈良時代の須恵器・土師器などが多数出土したことから、その時代の遺物包含層と考えられた。その暗灰褐色粘質土層の下に地山面である黄茶色粘土層が検出された。トレンチ西端から24m東の地点で、地山面上に、轍と牛の足跡が部分的に検出された。轍は、南北方向に幅3.5～6cm、深さ8cmほどで残っていた。2mのトレンチ幅でほぼ平行に、間隔92cmで検出されたものもあり、間隔150cmで検出されたものもあった。地山面である黄茶色粘土層が降雨後か何かで軟らかい時、牛車が通り、付いたものと推測された。また、本トレンチも部分的に各所深掘りしたが、黄茶色粘土層の下は、灰色・灰褐色の粘土層や黄褐色・灰色砂礫などで、洪積段丘およびその時代の自然河川跡と考えられた。遺物も出土しなかった。

Na10トレンチでは、15～55cmの新盛土の下に、厚さ16～50cmの灰茶色・灰色細砂層があり、自然河川堆積層であった。無遺物で、時期は不明である。その下に、厚さ30cmの灰色粘土層があり、土師器片が出土した。その下に、厚さ20cmの灰茶色粘土層があり、無遺物層であった。その下に、厚さ10cmの暗灰褐色粘質土層があり、遺物は出土しなかったが、遺物包含層のようであった。その下は、黄灰色粘土層の地山で、洪積段丘層と考えられた。

3 小結

以上の調査結果を踏まえ、Na1～Na6・Na9トレンチで奈良～室町時代の遺構を検出し、すべてのトレンチから古墳～室町時代の遺物が出土したことにより、事業対象区域については、工事に先立ち全域の発掘調査を必要とすること、併せて、遺跡外から遺構・遺物が発見されたため、遺跡発見通知を大阪府教育委員会教育長へ提出する旨、都市整備部長宛回答した。

第2節 A区の調査

1 調査の方法

(1) 掘削方法

試掘調査の結果に基づき、旧住宅建設のための盛土および近代以降の整地土、旧耕土と考えられる上層を重機により掘削し、その下層はすべて人力により掘削した。

(2) 地区割の設定 (第6図)

(財)大阪文化財センター(現(財)大阪府文化財センター)の調査規定に定める地区割((財)大阪文化財センター『遺跡調査基本マニュアル』1988)により、遺物の取り上げ等をおこなった。これは世界測地系に基づく直角平面座標第6系に基づき、南北6km、東西8kmの第1区画、第1区画を16分した南北1.5km、東西2kmの第2区画、第2区画内を100m単位で区画した第3区画、第3区画内を10m単位で区画した第4区画とするものである。

(3) 遺構番号

遺構番号は遺構面、遺構の種類に関わらず、検出した順に通し番号を付した。調査の結果、攪乱であることが判明した場合は、その遺構番号は欠番としている。

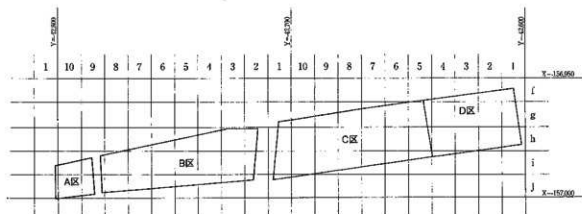
(4) 包含層

包含層の呼称は、遺物の取り上げ単位として「第〇面下層」とした。例えば、第1面の調査を終了し、第2面を検出する際の掘削時に出土した遺物が「第1面下層」出土遺物である。なお、各遺構面の精査時に出土した遺物は「第〇面直上」として下層出土遺物と区別した。

(5) 測量方法

主要な遺構面については、クレーンによる空中写真測量を実施した。また空中写真測量を実施しなかった遺構面については、調査区内の3、4級基準点からトラバース測量により調査区内に測量用杭を配置して1/20の実測図を作成し、水準測量をおこなった。

なお、A～D区の調査は、上記の調査方法により実施したので、次節以下のB～D区の報告にあたっては本項は省略する。



第6図 調査区地区割図 (S=1/1600)

2 基本層序（第7図）

最上層は現代の盛土（1）である。その下層には旧耕作土が2層あった（3、4）。旧耕作土の下層は、2.5Y6/2灰黄色砂層（5）である。本層上面が第1面である。その下層が2.5Y6/2灰黄色砂質土（6）である。粗砂、礫を多く含む。本層上面が第2面である。本層は厚く、約20cmあった。その下層が10YR5/3にぶい黄褐色砂質土（7）である。本層は2～10mm程度の礫を多く含んでいる。本層上面が第3面である。本層の下層には第4面まで3層（8～10）堆積しているが、いずれも砂層もしくは砂質土であった。（10）層にはラミナが明瞭に認められた。その下層が2.5Y5/1黄褐色粘質土（12）である。かたく締まり、調査区内では西側ほど粘性が強かった。本層上面が第4面である。また本層が地山層となる。

3 遺構と遺物

（1）第1面（第8図）

第1面は近世後期～近代の遺構面である。本面のレベルはおよそT.P.+13.15～13.20mである。本面では土坑2基、溝1条、自然河川1条を検出したが、このうち土坑と溝は上層から掘り込まれた近現代の攪乱である。

自然河川4（第9図） 西除川の旧流路の一部と考えられる近世後期の自然河川である。規模は不明だが、深さは最深部で約1.3mであった。埋土は砂礫である。出土遺物の多くは上流から流されてきたもので、摩滅が著しい。瓦器椀（1、3、4）・小皿（5、6）、土師器壺（9、10）・羽釜（11）、須恵器壺（2）、東播系の須恵器ねり鉢（8）、青磁椀（7）、瓦（13、14）、焼土壁の小片（12）など、古墳時代後期～近世の遺物が出土している。

（2）第2面（第8図）

第2面は室町時代と考えられる遺構面である。本面のレベルはおよそT.P.+12.80～12.85mである。本面では自然河川の堤と水田を検出した。

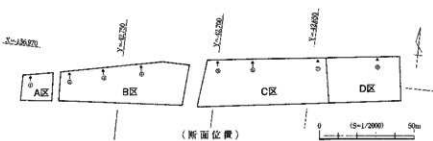
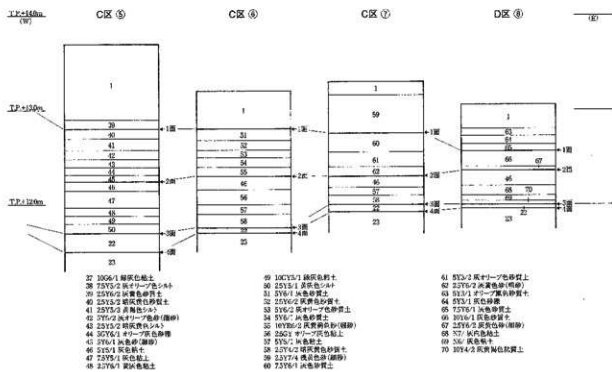
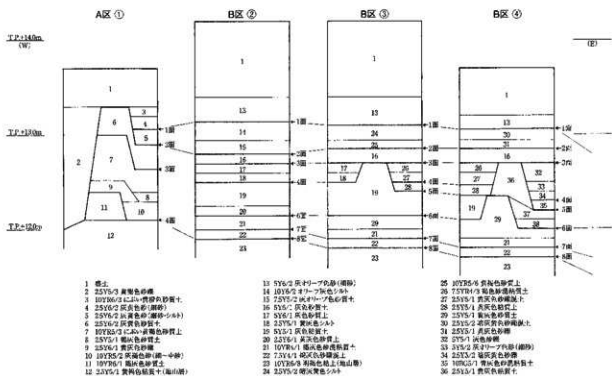
堤5 第1面自然河川4の前身河川に伴う堤である。堤の幅は上面で2.0～3.0m、高さは東に広がる水田面から20cm程度が残っていた。

水田6 堤5東側の一段下がった部分は水田面であると考えられる。畦畔は確認できなかったが、鋤痕先痕及び人、牛の足跡を検出した。

（3）第3面（第8図）

第3面は平安時代中期～鎌倉時代前期の遺構面である。本面のレベルはT.P.+12.60～12.70mである。本面では井戸1基、溝1条、堤1条の他、ピット5基、鋤溝12条を検出した。

井戸11（第10、11～13図） 鎌倉時代前期の井戸である。規模は径1.3m、深さ約1.0mである。井戸枠には曲げ物を2段使用している。瓦器椀（15～19）、須恵器壺（21）、東播系須恵器ねり

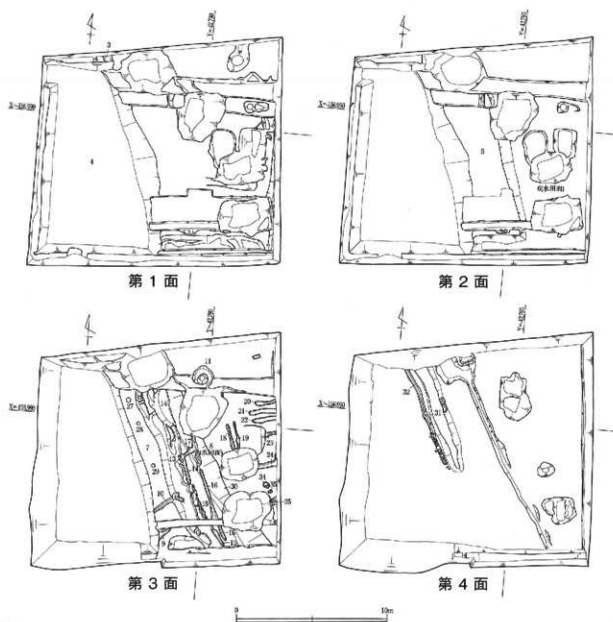


第7図 A~D区土層柱状横式図(垂直S=1/40)

鉢 (22)、土師器甕 (23、24)、同把手付鍋 (25)、羽釜 (26～32)、白磁碗 (20)、瓦 (33～37) などが出土した。瓦器碗はいずれも最下層 (6層) から出土している。

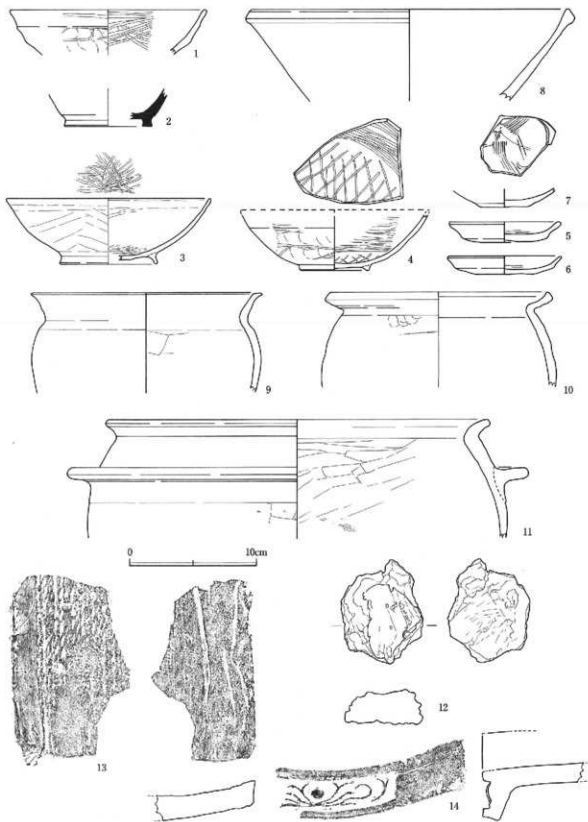
堤7 第2面堤5の直下で検出した。堤の幅は上面で1.1～2.5m、高さは、東に広がる水田8から0.25m程度である。

溝30 (第10、14、15図) 堤7の東に並行する溝である。規模は幅約4.8m、深さ0.7mである。本溝の埋土上面に多くの鑄溝が残っており、第3面では最も古い遺構である。黒色土器A類碗 (50、51)、土師器碗 (52～54、56～60)・皿 (55)・甕 (38、61～63、66)・把手付鍋 (67)・鉢 (64、65)、須恵器甕 (39)・壺 (41)、瓦 (40、42)、不明鉄製品 (43～45)、サヌカイト剥片 (46) などが出土した。(39～42、50、51、53、57～61、64～67) は第6層、他は第7層から出土している。時期は平安時代中期に位置づけられる。



第8図 A区第1・2・3・4面遺構平面図 (S=1/250)

水田8 堤5東側の一段下がった部分が水田面である。鋤溝12条を検出した。鋤溝の規模は幅0.2m前後、深さ5～10cm程度である。埋土はいずれも2.5Y6/2灰黄色砂質土である。なお、本面では明確な足跡は検出されなかった。



第9図 A区第1面自然河川4出土遺物 (S=1/3)

(4) 第4面(第8図)

第4面は奈良時代後期～平安時代前期の遺構面である。本面のレベルはT.P.+12.0～12.1mである。畦畦と溝を各1条検出した他、鋤鍬先痕と足跡を検出した。

畦畔31 第3面堤7の直下で検出した南北方向の畦畔である。南半部は削平されており、残っていない。規模は、幅0.8m、高さ0.29mである。

溝32 畦畔31に並行する溝である。検出長は6.86m、幅0.28m、深さ9cmである。埋土は7.5YR5/6明褐色砂(細砂)である。遺物は出土しなかった。

足跡等 調査区全面で鋤鍬先痕と足跡を検出した。鋤鍬先痕は溝32の底及びその周囲で検出した。平面形は三日月～半月形をしており、遺構面に深く食い込んでいる。足跡は人と牛のもので、畦畔31の東側に多く残っていた。

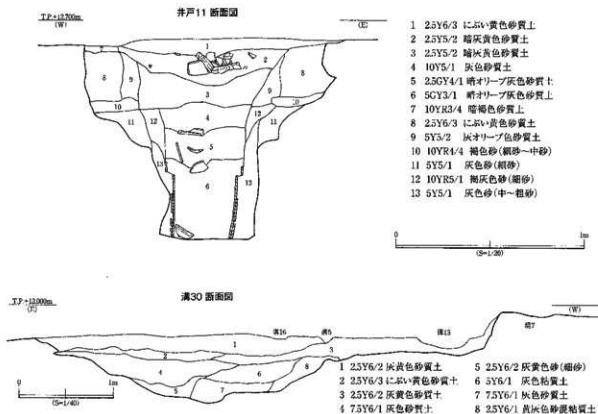
(5) 包含層出土遺物(第15、16図)

第1面下層 瓦器碗、土師器小皿(80)など中世の土器片が出土した。

第2面直上 瓦器碗、土師器小皿(79)など中世の土器片が出土した。

第2面下層 瓦器碗、白磁碗(81)など中世前期の土器、陶磁器の他、円筒埴輪片(73)など古墳時代の遺物が出土した。

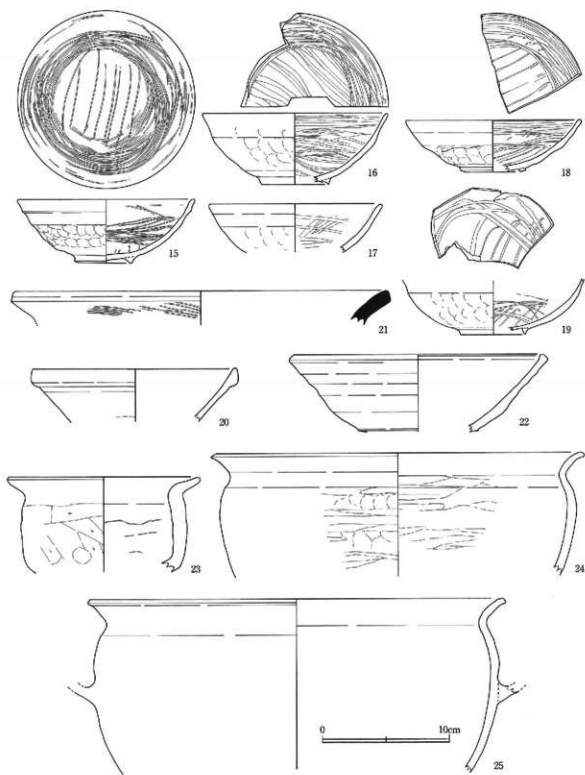
第3面下層 中世の瓦器碗(76、77)、土師器碗(78)、東播系の須恵器ねり鉢(82)、奈良時代の



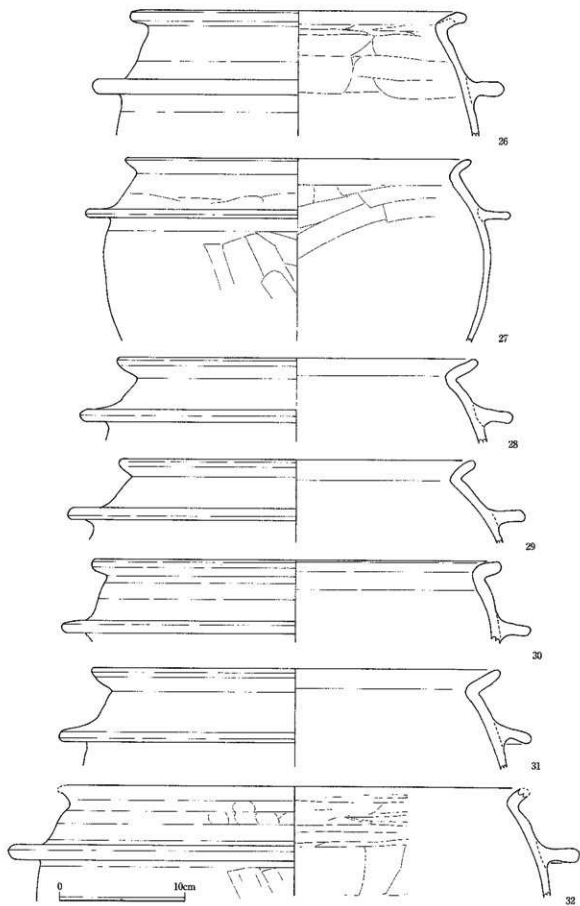
第10図 A区第3面井戸11・溝30断面図(S=1/20・1/40)

須恵器杯 (68)・壺 (72)、甕 (74、75)、土師器杯 (69)・皿 (70) など奈良時代から鎌倉時代前期の土器片が出土した。

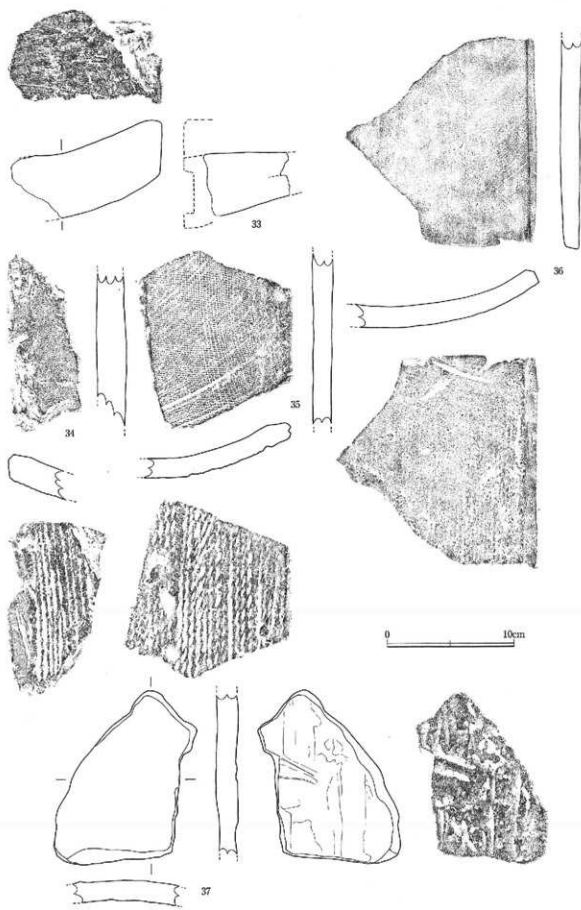
第4面下層 本調査区は西除川に近接しているためか、地山層である2.5Y5/1黄褐色粘質土 (12) 層は、この段階ですでに調査が完了していたC～F区の地山層である10YR6/8明褐色粘土 (23)



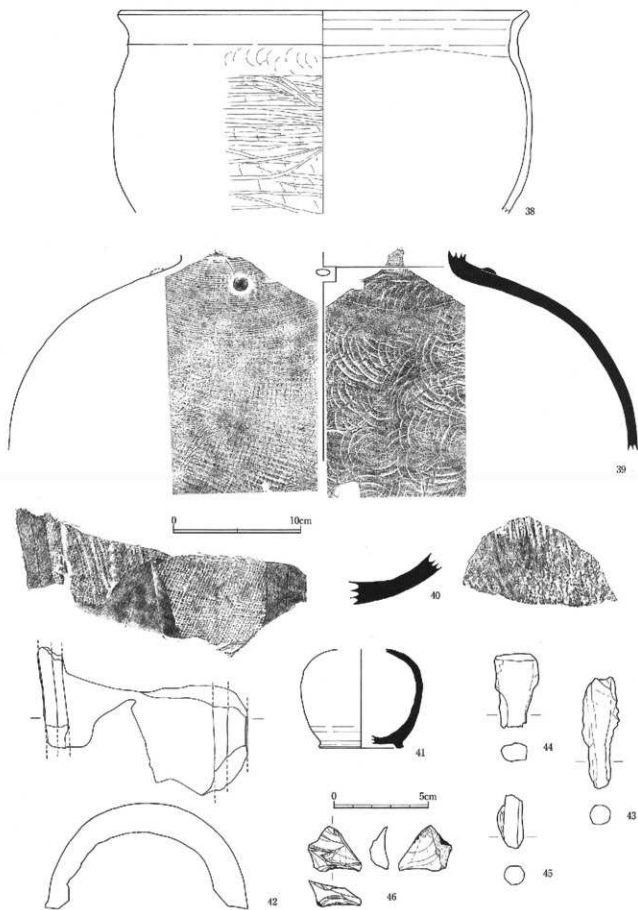
第11図 A区第3面井戸11出土遺物 (S=1/3)



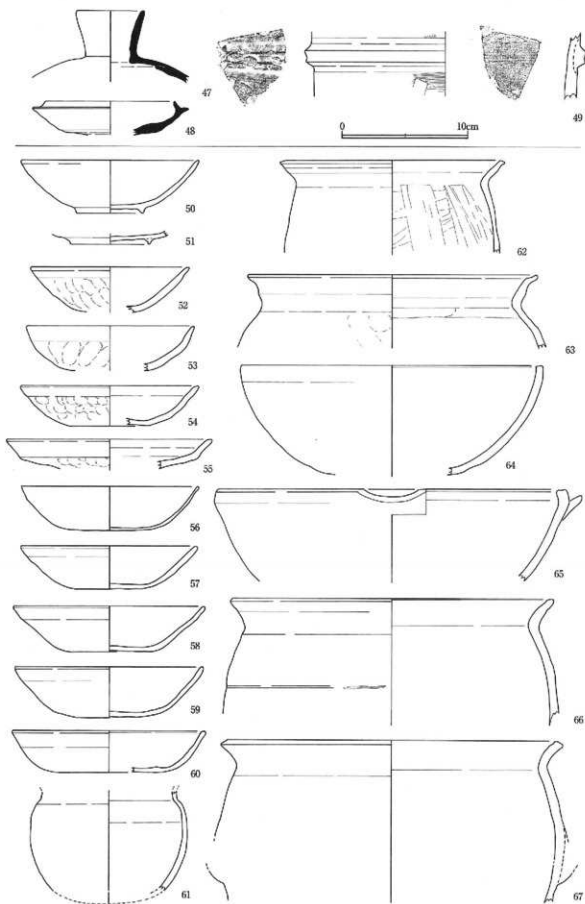
第12图 A区第3面并戸11出土遗物 (S=1/3)



第13图 A区第3面井戸11出土遺物 (S=1/3)

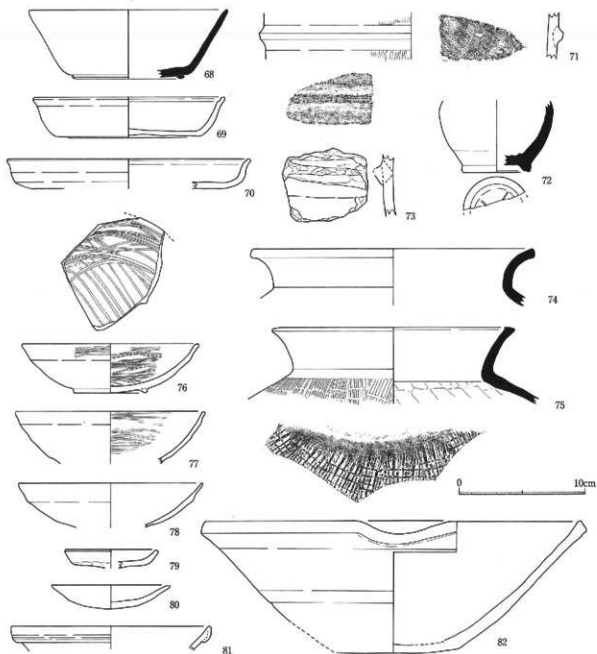


第14图 A区第3面满30出土遗物 (S=1/2·1/3)



第15图 A区第3面遺構30、第4面下層出土物 (S-1/3)

と比べると、暗く、灰色がかった色調で、砂を多く含んでいた。そのため本面が確実に既往の調査の地山面に対応するものであるのか確認する必要があると考え、調査区中央部において第4面下層を掘削した。その結果、2.5Y5/1黄褐色粘質土(12)層の直下の層である10YR5/2灰黄褐色粘質土上面において、砂の埋積した溝か流路らしき輪郭が認められたため、これを精査した。しかし、これは流水による浅い不整形の凹凸にすぎず、遺構とは考えられなかった。また、他に遺物も検出できなかったことから、第4面を地山面と結論づけた。なお、第4面下層を掘削した際に、古墳時代の須恵器杯身(48)、円筒埴輪(49)や奈良時代の須恵器横瓶(47)などの小片が出土したが、いずれも層の上面付近で出土した小片であり、足跡等の踏み込みにより本層に混入したものと考えられる。



第16図 A区第2面直上、第2・3面下層出土遺物

第3節 B区の調査

1 基本層序 (第7図)

最上層は現代の盛土 (1) であり、その下層が旧耕作土 (13) である。その下層の10Y6/2オリーブ灰色シルト等 (14、24、30) 上面が第1面である。その下層には中～粗砂と細礫を主体とする洪水堆積層 (15、25、31) がある。本層に覆われた5Y5/1灰色砂質土 (16) 上面が第2面である。その下層の5Y6/1灰色砂質土等 (17、26、32) 上面が第3面である。第3面の下層には、砂礫層もしくは砂礫を多く含んだ砂質土層 (18、27、33、34) がある。その下層にある5Y5/1灰色粘質土等 (19、28、35) 上面が第4面である。また調査区東半部では (28、35) の下に (19) 層及び10G6/1緑灰色粘土 (37) があり、この上面を第5面とした。その下層にある10YR4/1褐灰色砂混粘質土等 (21、29) 上面が第6面である。その下層は7.5YR4/1褐灰色砂礫泥土 (22) である。本層はこげ茶色～黒色を呈する層であるため、識別は容易であった。本層上面が第7面である。この下層は10YR6/8明褐色粘土 (23) である。かたく締まり、粘性が高い。本層上面が第8面である。また本層が地山層となる。

2 遺構と遺物

(1) 第1面 (第18図)

本面は近世～近代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+13.2～13.0mである。本面では用水路と考えられる溝の他、近代の井戸、土坑を検出した。

溝521 (第17、19、20図) 東西方向の溝で、規模は幅0.6～3.4m、深さ0.2～1.3mである。掘遺物は染付碗など近世の陶磁器、瓦などが出土した (90～110)。

溝1 (第17図) 南北方向の溝で、規模は幅3.7m、深さ1.1mである。溝776を切っている。陶器碗 (151) など近世の陶磁器、瓦片が出土した。

溝776 南北方向の溝で、規模は幅1.0～1.8m、深さ0.7mである。本溝西側の肩は溝1に切られている。また溝776が分岐している。遺物は出土しなかった。

溝2 (第17、24図) 南北方向の溝で、規模は幅2.1～2.6m、深さ0.45～0.6mである。遺物は近世の陶磁器片、土師質甕片 (166) などが出土した。

溝12 南北方向の溝で、規模は幅1.4m、深さ0.1mである。北端部は溝521につながる。遺物は近世の陶磁器片が出土した。

溝13 (第21、24図) 南北方向の溝で、規模は幅1.1～1.8m、深さ0.15mである。染付碗等 (117～119、174、175) など近世の陶磁器片が出土した。

この他に小規模な溝もいくつか検出した。このうち溝533から染付碗等 (126～130)、溝542から染付碗等 (146～149) が出土している。

井戸 (第19～24図) 井戸は36基検出した。いずれも近代のものだが、近世の陶磁器類等が投棄

されていた(井戸10:167~173、井戸18:176、177、井戸501:83~86、井戸503:87、井戸505:88、89、井戸524:111~115、井戸525:116、井戸528:120、井戸531:121~124、井戸532:125、井戸534:131~135)、井戸535:136~140、井戸536:141~143、井戸538:144、145、井戸544:150、井戸546:152、153)。

(2) 第2面(第18図)

本面は室町時代と考えられる遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.8~12.9mである。本面では段1箇所、ピット4基および足跡を検出した。本面は水田であると考えられる。

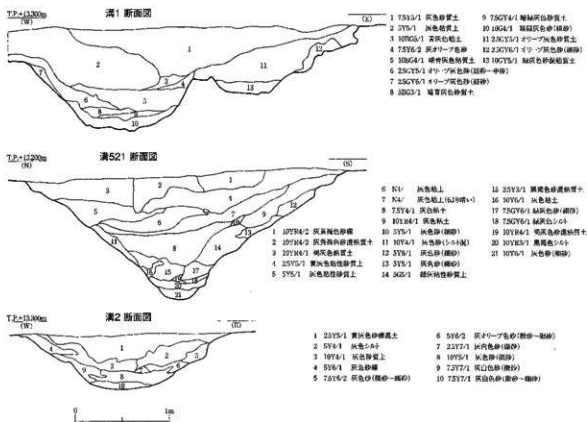
段57 Y=-42.740付近で検出した段である。ここを境に東側が5~10cm程度低くなる。第1面ではこの段の直上に溝13が、第4~6面では直下で大畦畔が検出されていることから、おそらく段57は条里水田の水田区画の痕跡であろう。

ピット4基を検出した。いずれも平面形は楕円形で、規模は長径0.6~0.7m、短径0.4~0.5m、深さは0.1mほどである。柱痕は確認されず、遺物も出土しなかった。

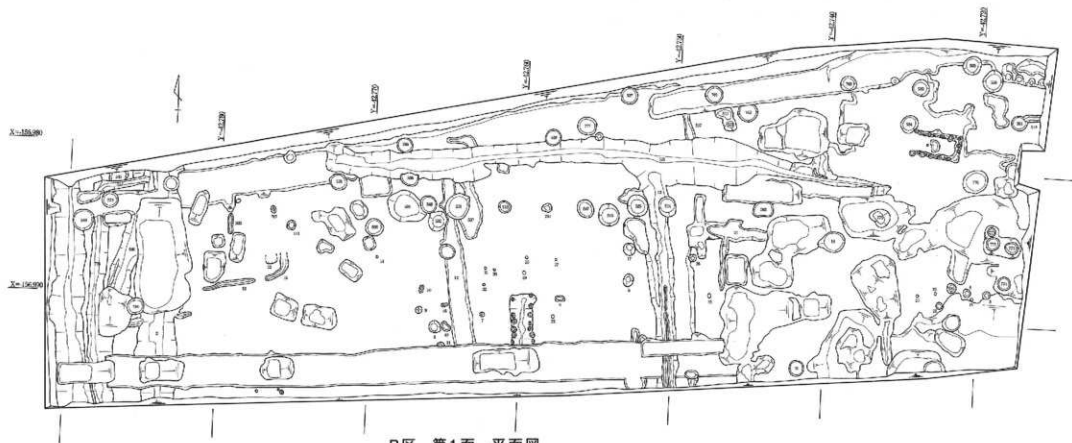
足跡調査区の全面で足跡を検出した。輪郭の明瞭なものも人の足跡であった。

(3) 第3面(第25図)

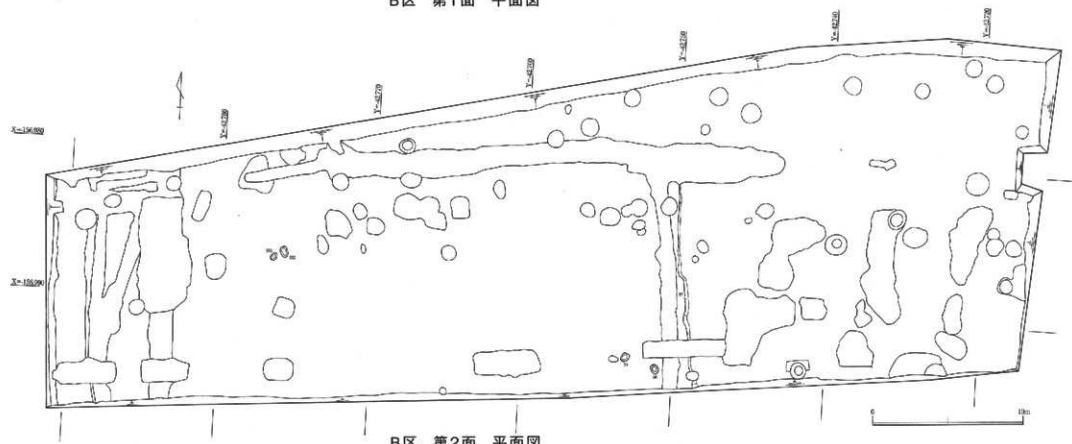
本面は鎌倉時代後期~室町時代と推測される遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.6~



第17図 B区第1面溝1・2・521断面図 (S=1/40)

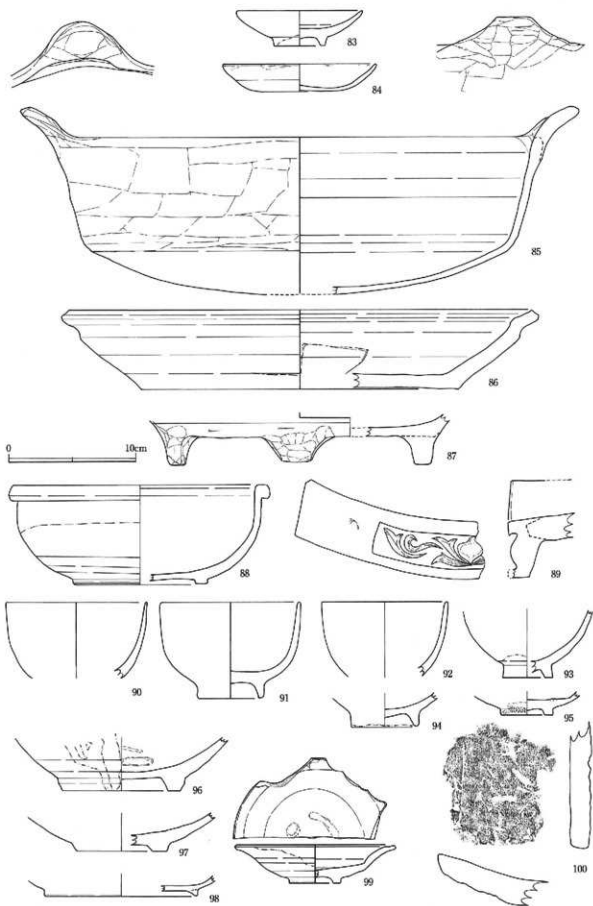


B区 第1面 平面图

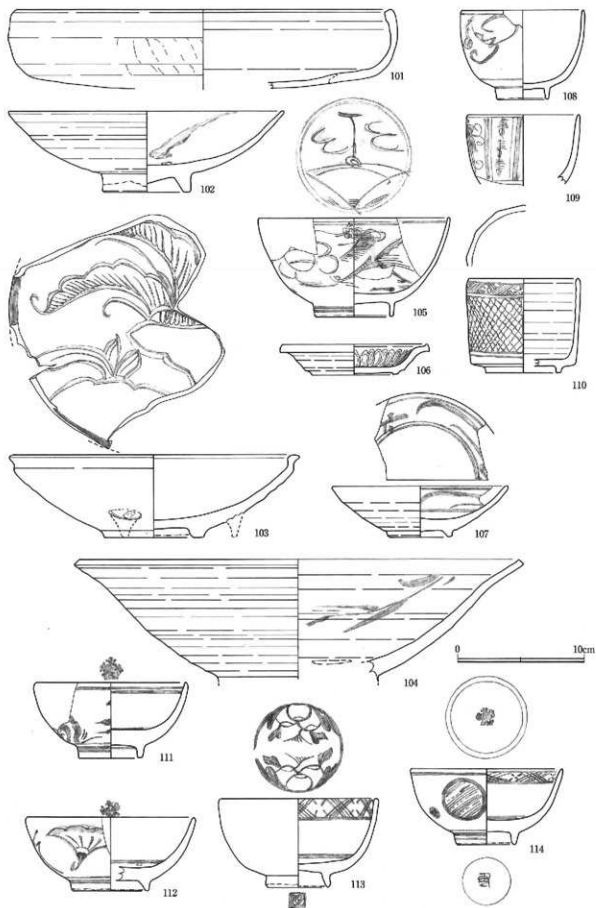


B区 第2面 平面图

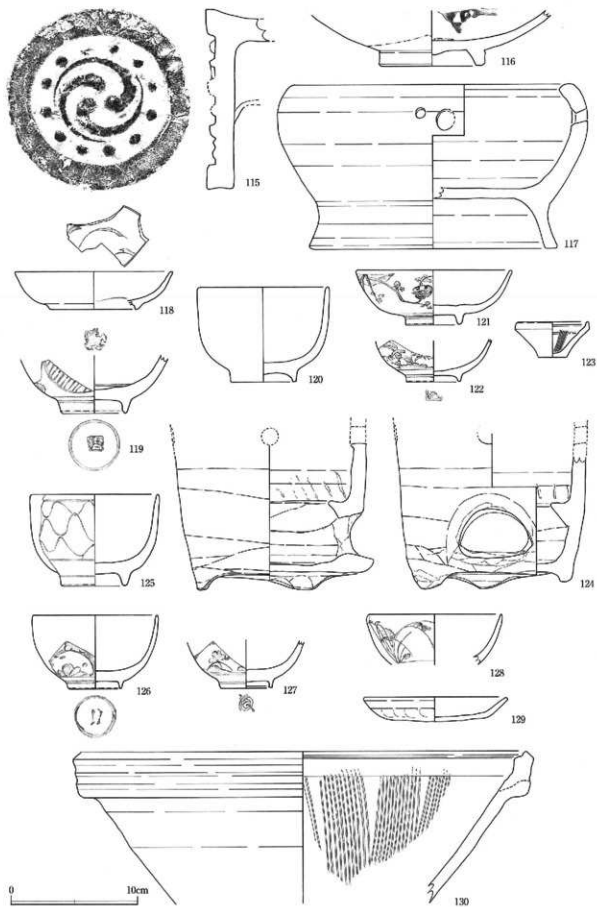
第18图 B区第1·2面遗构平面图 (S=1/250)



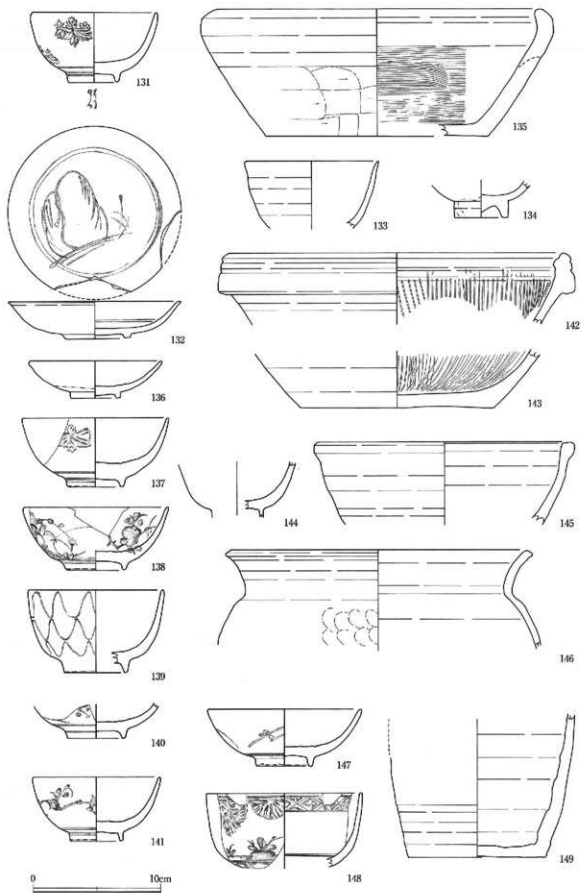
第19图 B区第1面井戸501・503・505、溝521出土遺物 (S=1/3)



第20图 B区第1面溝521・井戸524出土遺物 (S=1/3)



第21图 B区第1面溝13・533、井戸524・528・531・532出土遺物 (S=1/3)



第22図 B区第1面溝542、井戸534・535・536・538出土遺物 (S=1/3)

12.7mである。本面は水田であり、大畦畔1条と鋤溝多数の他、足跡を検出した。

畦畔171 完全に削平されているが、溝69と溝74の間に想定される南北方向の大畦畔である。規模は幅2.0～2.4mである。

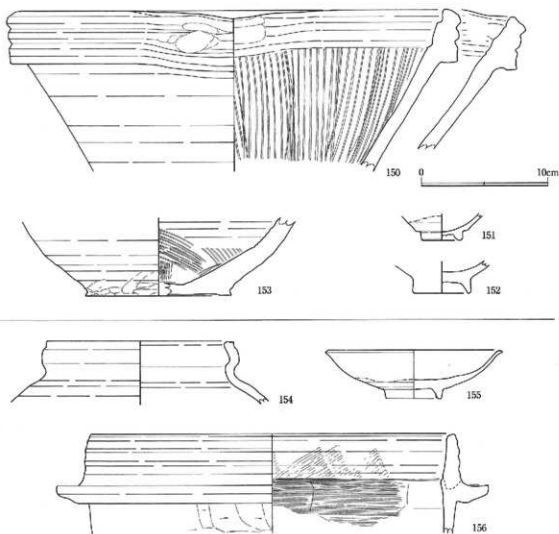
鋤溝群 本面ではX=-42.740より西側において多くの鋤溝を検出している。鋤溝の方向は、畦畔171の東側は南北方向であるが、西側は東西方向が主体であった。

足跡 本面の足跡は少ない。形の明瞭なものは牛の足跡のみであった。

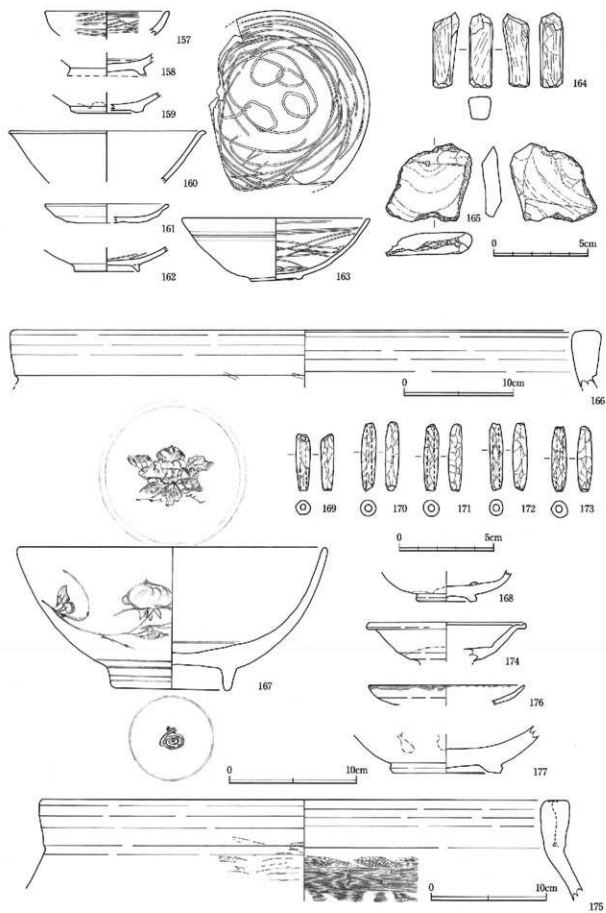
(4) 第4面 (第25図)

本面は鎌倉時代前期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.3～12.5mである。本面は水田であり、大畦畔3条の他、ピット、溝、鋤溝及び足跡を検出した。

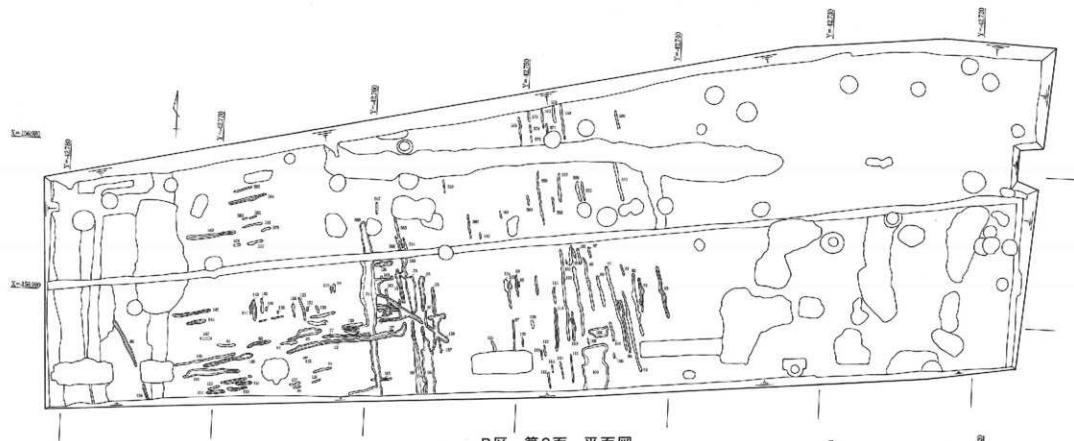
畦畔184 (第27、28図) 南北方向の大畦畔である。規模は幅1.9～2.5m、高さ0.2mである。本畦畔を境に東側の水田面は0.05～0.2m程度低くなる。本畦畔の中からは、瓦器椀の高台部(180)、赤変した凝灰岩の切石片(190)が出土した。



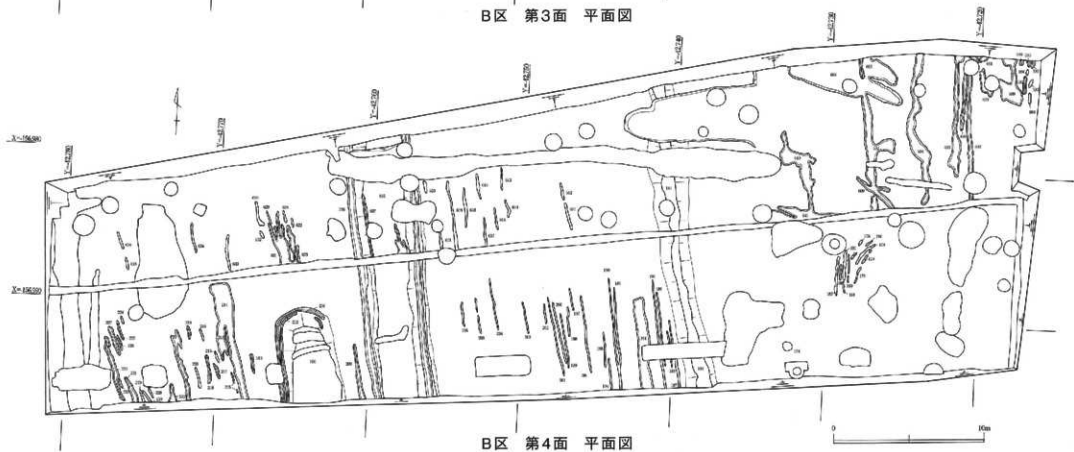
第23図 B区第1面溝1、井戸構544・546、同面下層出土遺物 (S=1/3)



第24图 B区第1面满2·13、井戸10·18、第2面下層、第3面直上、第3面下層出土遺物(S=1/2·1/3)



B区 第3面 平面图



B区 第4面 平面图

第25图 B区第3·4面遺構平面图 (S=1/250)

畦畔185 (第27、28図) 南北方向の大畦畔である。規模は幅3.6m、高さ0.1mである。10YR2/1黒褐色土で築かれていた。瓦器椀 (181、182)、土師器甕 (187)、サヌカイト剥片 (188) 等が出土した。また本畦畔西側の溝208からは土師器皿 (179) が出土している。

畦畔186 南北方向の大畦畔である。規模は検出長5.8m、幅3.6m、高さは0.1mである。畦畔185と同じく10YR2/1黒褐色土で築かれていた。土器小片が多く出土した。

土坑174 (第26、28図) 平面形は円形に近く、規模は径0.58m、深さ0.73mである。上面付近より東播系の須恵質甕の肩より上部 (189) が口縁部を下にして出土した。

鋤溝 (第28図) 畦畔184の西側で南北方向の鋤溝を多く検出した。出土遺物には、鋤溝206の瓦器椀 (183)、鋤溝233の瓦器椀 (184)、鋤溝620の緑釉陶器椀 (186)、鋤溝624の灰釉陶器小皿 (185)、鋤溝630の土師器皿 (178) などがある。

足跡 畦畔184の東側で人と牛の足跡を検出した。

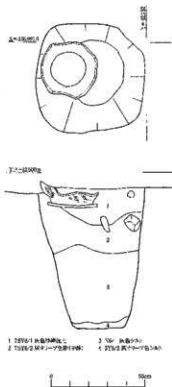
(5) 第5面 (第29図)

本面は第4面畦畔185より西側で検出した。平安時代後期～鎌倉時代前期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.2～12.4mである。本面は水田であり、大畦畔の他、溝、鋤溝及び足跡等を検出した。

畦畔248 (第30図) 南北方向の大規模な畦畔である。本畦畔を境に東側の水田面は西側の水田面より平均して5～10cm程低くなっている。瓦器椀 (202)、黒色土器A類椀 (201)、土師器杯 (200)、灰釉陶器壺 (199) が出土した。

鋤溝 (第30図) 鋤溝は主に畦畔248の東側で検出した。鋤溝236から瓦器椀 (203)、鋤溝658から黒色土器A類椀 (197)、土師器杯 (198)、鋤溝659から土師器杯 (194、195)、緑釉陶器皿 (196) などが出土している。

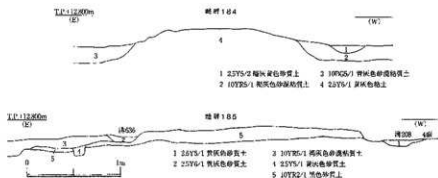
足跡 人と牛の足跡を検出したが、第4面に比べると少なく、全体にまばらであった。



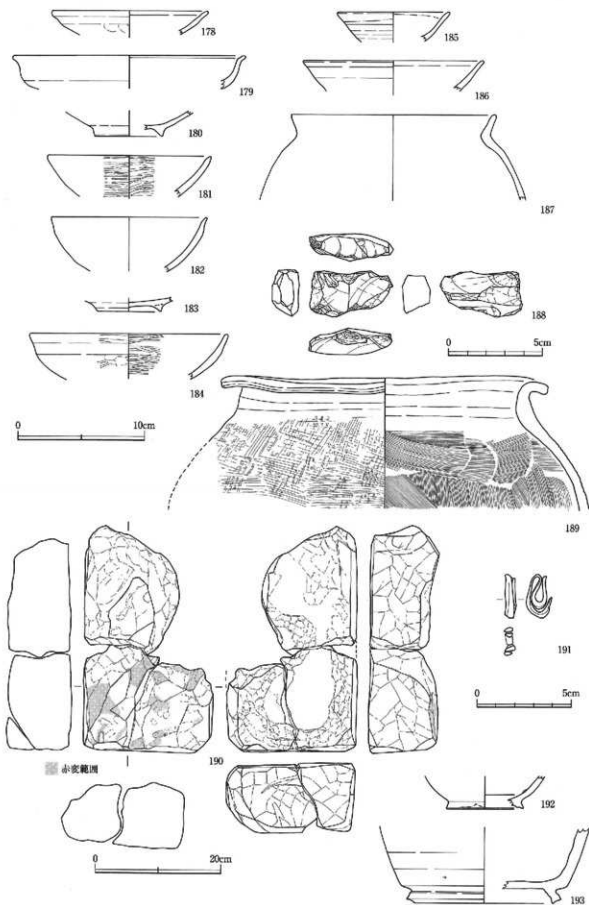
第26図 B区第4面土坑174
平面・断面図 (S=1/20)

(6) 第6面 (第29図)

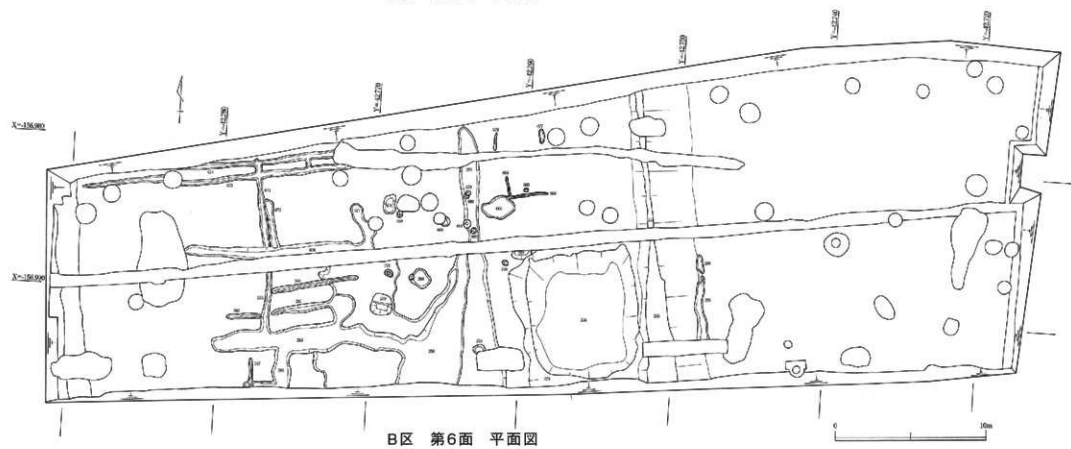
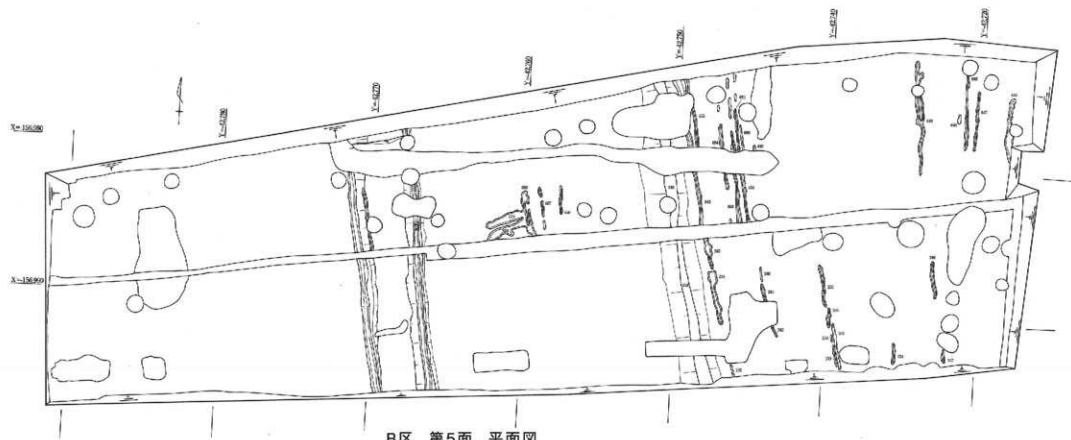
本面は平安時代前期～中期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.0～12.15mである。本面は集落と水川で



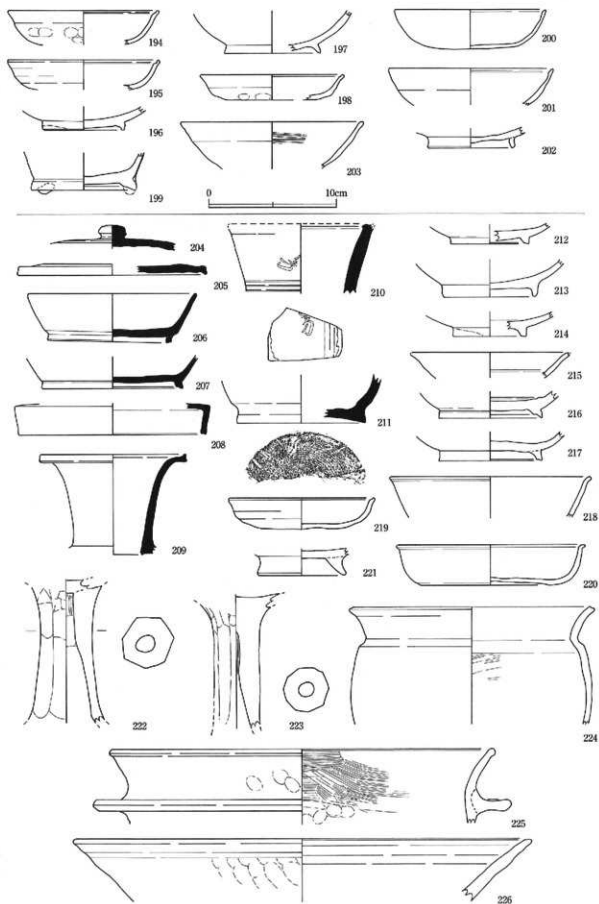
第27図 B区第4面畦畔184・185断面図 (S=1/40)



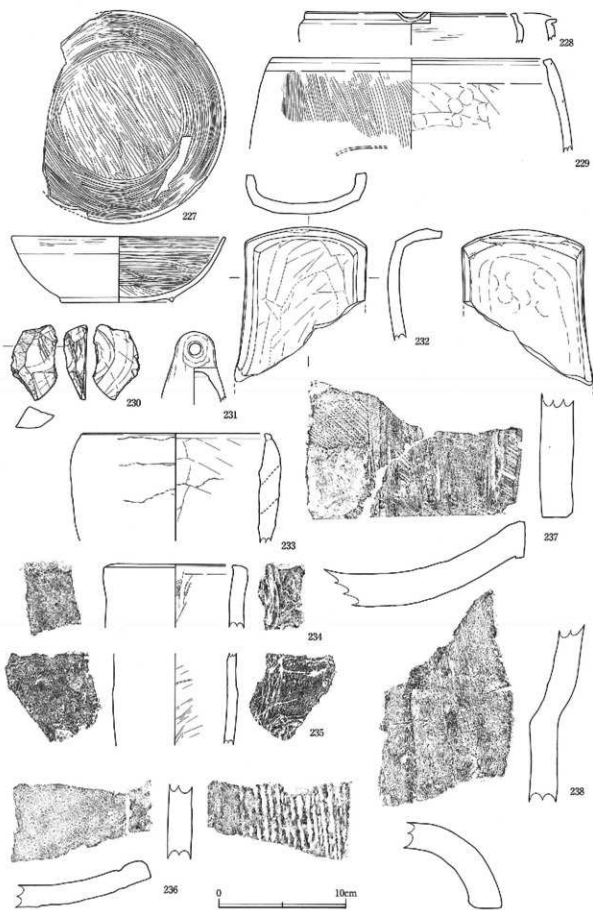
第28图 B区第4面直上、同面畦畔184·185、清206·208·233·620·624·630、侧清出土遗物(S=1/2·1/3)



第29图 B区第5·6面透视平面图



第30图 B区第5面畦畔248、埝溝236·658·659、同面下層出土遺物 (S=1/3)



第31图 B区第5面下層、倒溝出土遺物 (S=1/3)

あり、井戸1基の他、土坑、ピット、溝、畦畔等を検出した。

井戸269(第32、35、36) 平安時代前期の木枠井戸である。平面形は隅丸方形で、長径2.1m、短径2.05m、深さは1.2mである。最下段には、長80～85cm、厚さ5～7cmの板材4枚を、両端より5cmのところまで相欠にし、井桁状に組み合わせている。その四隅外側に6～8cm角の柱を立て、その外側の四方に長さ75～85cm、厚さ3～7cmの板材を設置し、その上に長さ80cm、厚さ2～3cmの板材を三段に重ねていた。なお、柱には貫穴があり、建物からの転用材と考えられる。神功開寶(291)、土師器(277～287、289、290)、須恵器(292、293)、製塩土器(288)、平瓦(294、295)などが出土した。(282、291)は12層、(277、290)は10層、(283、284、288)は9層、他は6層出土である。

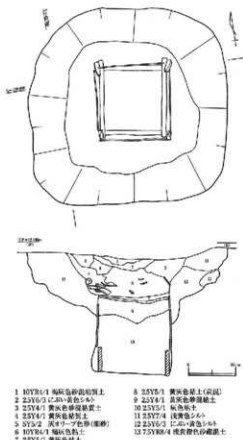
土坑256・270(第35、37図) 大規模な土坑である。調査時は2基の土坑として扱ったが、本来は同一土坑の上層(270)と下層(256)であると考えられる。規模は南北9m以上、東西8.5m、深さ0.3mである。埋土は上層がN4/灰色砂質土、下層が10YR5/1褐灰色砂質土である。遺物は上層から黒色土器A類椀(296～298)・鉢(302)、土師器小皿(299～301)、緑陶陶器皿(303)が、下層からは黒色土器A類椀(276)が出土した。

畦畔255(第37図) 南北方向の大畦畔である。土師器椀(304、305)・鍋(307)、黒色土器A類椀(306)、須恵器短頸壺(308)などが出土した。

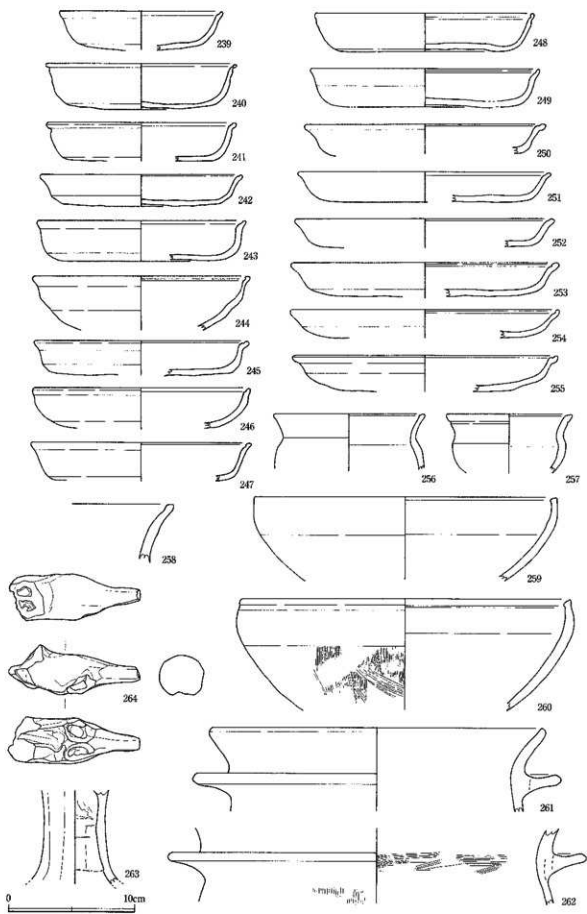
ピット(第37図) 調査区中央部で13基検出した。埋土はいずれも2.5Y4/1黄灰色砂質土である。ピット668から土師器皿(311)、ピット669から平瓦(312)、ピット681から土師器皿(320)・甕(321)、ピット682から土師器皿(322)が出土した。

溝(第33～35、37、39) 調査区西部で多く検出した。耕作に伴う溝と考えられるが、性格は不明である。埋土はいずれも7.5Y5/2灰オリーブ色シルトである。井戸、ピットとの切り合い関係がわかるものは、すべて溝が後出であった。溝からは奈良時代を中心に平安時代前期までの土師器、須恵器が多く出土している(溝259:239～268、309、310、355～372、溝263:269～274、溝265:275、溝671:313、溝672:314、溝674:315、溝676:316～318、溝678:319)。

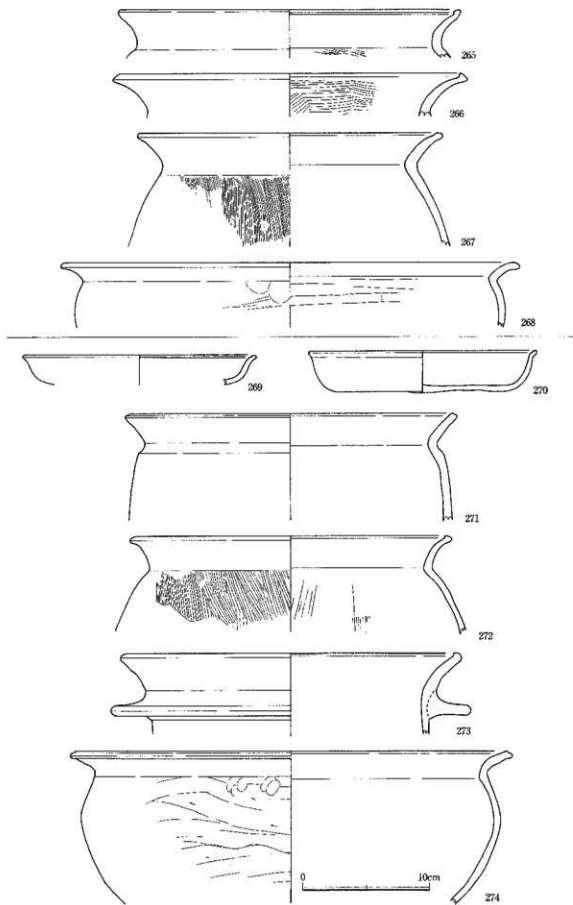
足跡 人と牛の足跡を畦畔248の東側で検出した。全体にまばらであった。



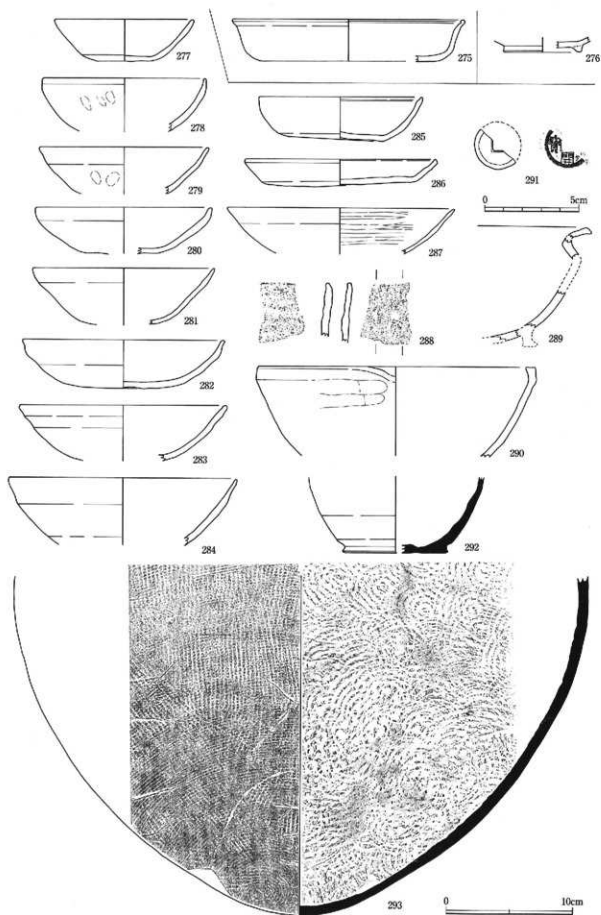
第32図 B区第6面井戸269平面・断面図(S=1/40)



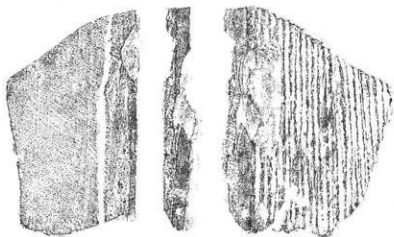
第33图 B区第6面满259出土遗物 (S=1/3)



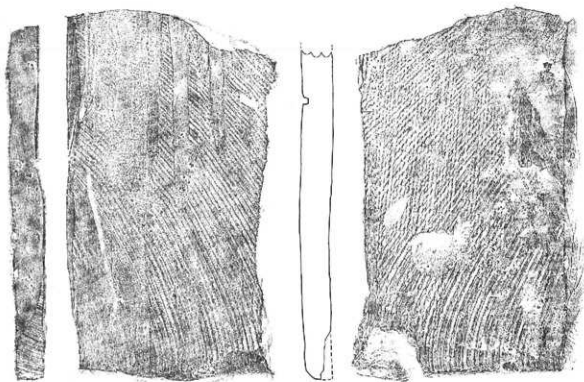
第34图 B区第6面溝259·263出土遺物 (S=1/3)



第35图 B区第6面土坑256、溝265、井戸269出土遺物 (S=1/2·1/3)



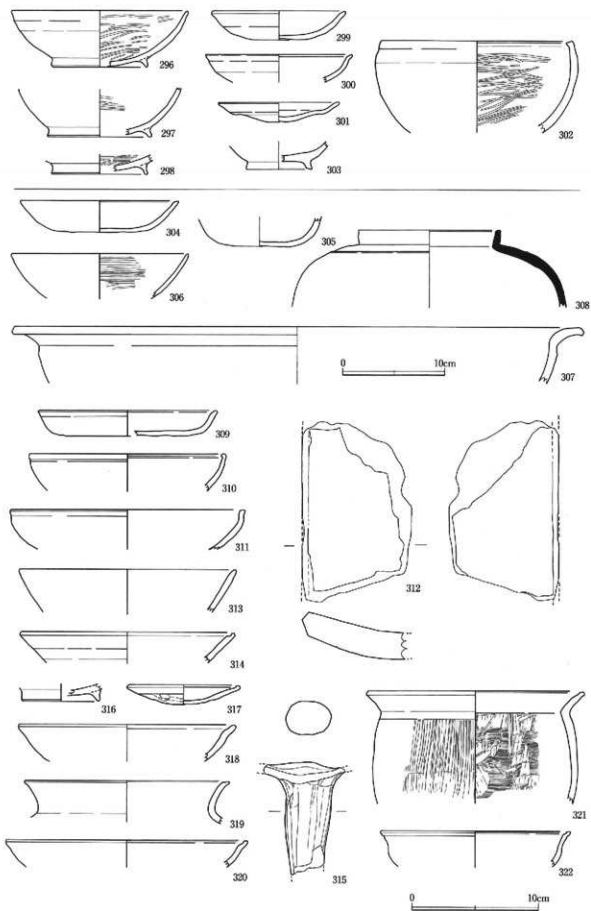
294



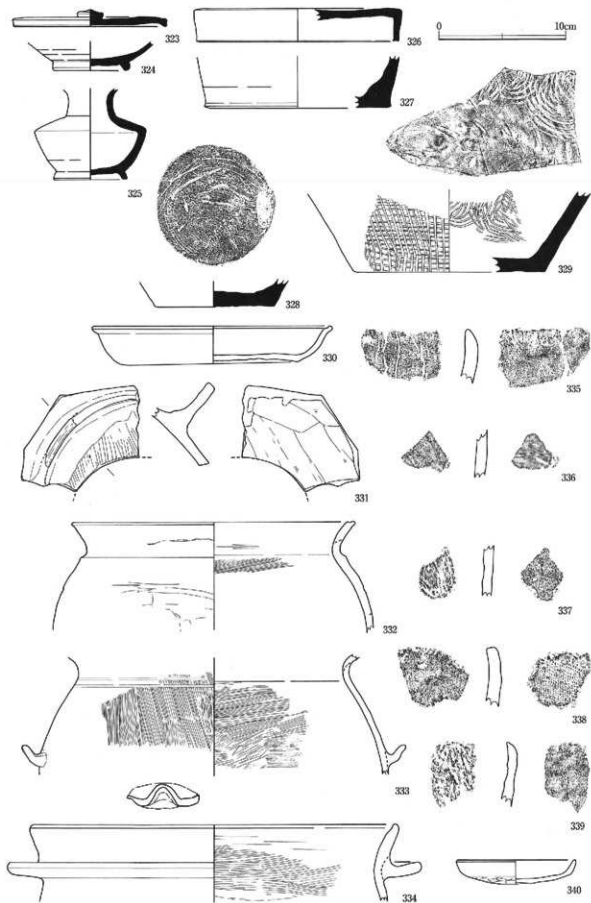
295

0 10cm

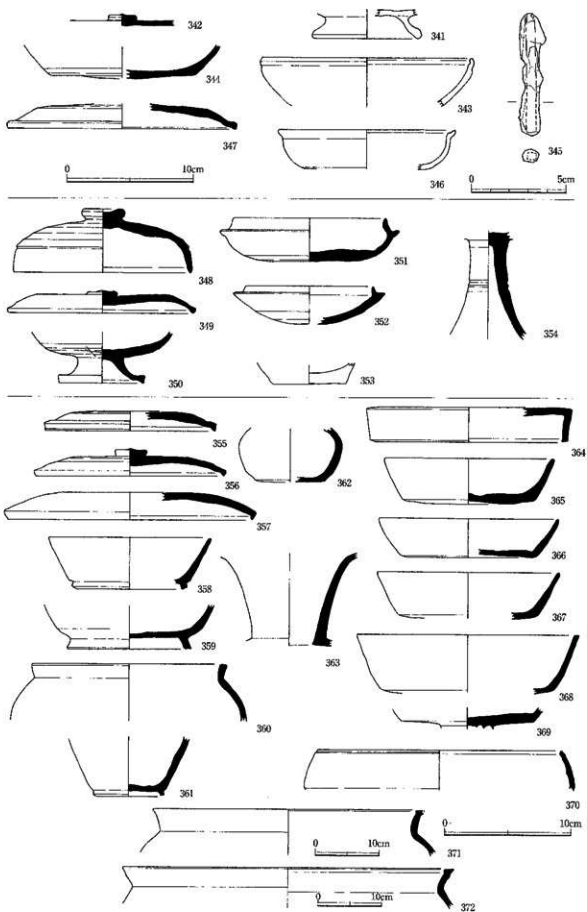
第36图 B区第6面井戸269出土遺物 (S=1/3)



第37図 B区第6面畦畔255、土坑270、溝259・671・672・674・676・678、ピット668・681・682遺構出土遺物(S=1/3)



第38图 B区第6面下層出土遺物 (S=1/3)



第39図 B区第6面溝259、第7面土坑271、ビット276・279・280・291、同面下層出土遺物(S=1/2・1/3・1/6)

(7) 第7面 (第40図)

本面は奈良時代後半～平安時代初頭の遺構面である。調査区西半部で掘立柱建物5棟や溝を、東半部で水田を検出した。集落と水田の間には段差があり、集落域のレベルはT.P.+12.0～12.15m、水田域のレベルはT.P.+11.7～11.9mであった。

掘立柱建物781 (第39、41、42図) 4間 (8.95m) × 2間 (4.75m)の東西建物である。柱穴からは土師器、須恵器、瓦の小片等が出土した (ピット701:374、375、ピット719:378、379、ピット707:377、ピット276:342～344、ピット279:345、ピット280:346)。

掘立柱建物782 (第41図) 3間 (7.25m) × 2間 (4.57m)の東西建物である。柱穴からは須恵器、土師器の小片が出土した。

掘立柱建物783 (第41、42図) 南北建物であると考えられる。梁間2間 (4.4m)、桁行は調査区外のため不明である。柱穴の規模は本調査区内の建物の中で最も大きく、倉庫の可能性が考えられる。柱穴からは土師器、須恵器の小片が出土した (ピット723:380、ピット725:381、382、387、ピット726:383、384、388)。

掘立柱建物784 南北建物であると考えられる。梁間2間 (3.4m)、桁行は調査区外のため不明である。柱穴からは須恵器、土師器の小片が出土した。

掘立柱建物785 (第39図) 南北建物であると考えられる。梁間2間 (5.0m)、桁行は調査区外のため不明である。柱穴からは須恵器片が出土している (ピット291:347)。

また、これ以外のピットからの出土遺物として、ピット696から土師器椀 (373)、ピット704からは土師器皿 (376)が出土した。

土坑271 (第39図) 平面形が隅丸方形を呈する土坑である。長1.35m、幅0.75m、深さは5cmである。埋土は2.5Y6/1黄灰色粘土である。土師器台付杯 (341)が出土した。

畦畔 南北方向の畦畔1条 (畦畔272・273)と東西方向の畦畔2条 (畦畔275、683)を検出した。畦畔の規模は幅0.75～1.2m、高さ5～7cmである。

溝742 (第42図) 調査区北西隅で検出した。規模は不明だが、深さは0.12mである。埋土は10YR4/1褐灰色砂質土である。遺物は須恵器杯蓋 (385)・高杯 (386)が出土した。

(8) 第8面 (第40図)

本面は奈良時代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+11.7～11.9mである。本面では道路状遺構、溝、足跡を検出した。

道路状遺構 本調査区において、平行する2条の溝 (溝302、304等)からなる道路状遺構を検出した。両溝の間隔は3m前後である。

溝302 南東-北西方向の溝である。規模は幅2.3～4.0m、深さは0.2mである。埋土は10YR4/1褐灰色粘質土である。遺物は出土しなかった。

溝304・750～752 南東-北西方向の溝である。三箇所まで途切れていた。規模は幅2.0～2.3m、

深さは0.15mである。埋土は10YR4/1褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

溝 道路状遺構の他にもいくつか溝を検出している。

溝307 南北方向の溝である。規模は幅0.25～0.45m、深さ6cmである。埋土は7.5YR4/1褐色砂礫混土である。遺物は出土しなかった。

溝310 南北方向の溝である。規模は幅0.9～1.6m、深さ12cmである。埋土は7.5YR4/1褐色砂礫混土である。遺物は土器小片が出土した。

溝311 南北方向の溝である。規模は幅0.4～0.7m、深さ5cmであるが、北半部では大きく広がっていた。埋土は7.5YR4/1褐色砂礫混土である。遺物は土器の小片が出土した。

足跡 人と牛の足跡を検出した。

(9) 包含層出土遺物

第1面下層(第23図) 白磁皿もしくは蓋(155)、陶器壺(154)、瓦質羽釜(156)など、中世後期～近世の土器、陶磁器片が出土した。

第2面下層(第24図) 黒色土器、瓦器、土師器など平安時代～中世の土器、陶磁器片が出土した。またサヌカイト剥片(165)が出土している。

第3面直上(第24図) 瓦器(157)や時期不明の土師器、須恵器片が出土した。

第3面下層(第24図) 瓦器(161～163)、緑釉陶器(158)、白磁(159、160)など中世の土器、陶磁器片が出土した。他に砥石(164)が出土している。

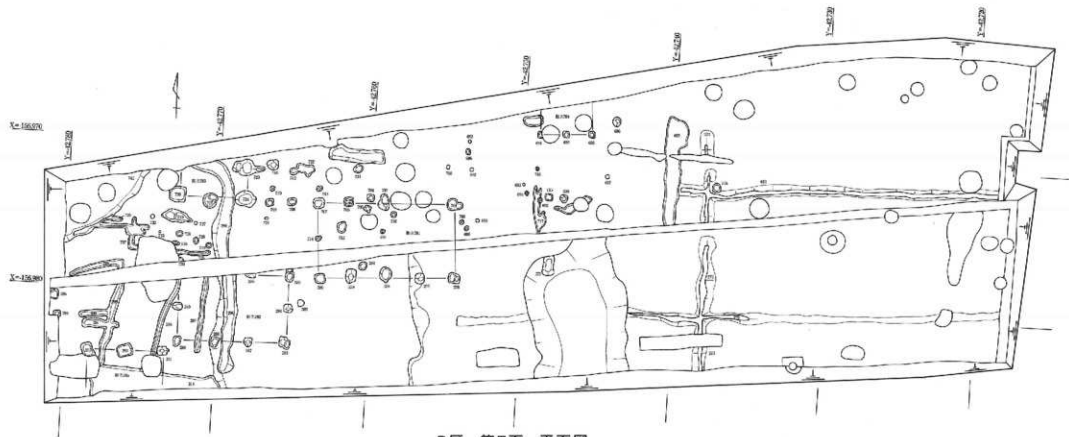
第4面直上(第28図) 第4面直上からは奈良時代～中世の瓦器、土師器片が出土した。この他、不明銅製品(191)が出土している。

第5面直上(第30図) 中世の瓦器の他、緑釉陶器椀(218)や須恵器、土師器など、奈良時代～平安時代中期の土器が出土した。

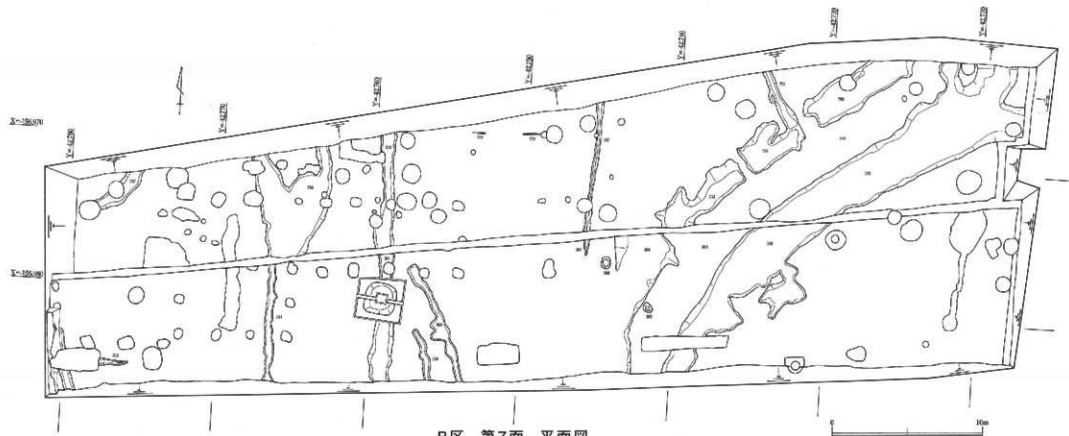
第5面下層(第30、31図) 須恵器(204～211、231、232)、土師器(220～226、228)、製塩土器(233～235)、黒色土器A類(227、228)、灰釉陶器(212、213)、緑釉陶器(214～217)、瓦(236～238)など、奈良時代～平安時代中期の土器が出土した。また、サヌカイト剥片(230)が出土している。なお、須恵器壺(210)の口頸部には、ヘラで「男」と考えられる文字を刻んでいる(独立行政法人奈良文化財研究所 渡辺見宏氏、名古屋大学大学院 古尾谷知浩氏の御教示を得た)。

第6面下層(第38図) 須恵器(323～329)、土師器(330～334、340)、製塩土器(335～339)など奈良時代～平安時代前期の土器が出土した。

第7面下層(第39図) 第7面下層から出土する遺物には古墳時代後期の須恵器(348、350～352、354)と、奈良時代の須恵器(349)がある。この他、弥生時代中期の壺底部(353)が出土した。



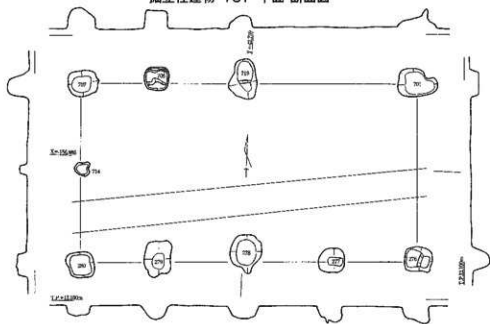
B区 第7面 平面图



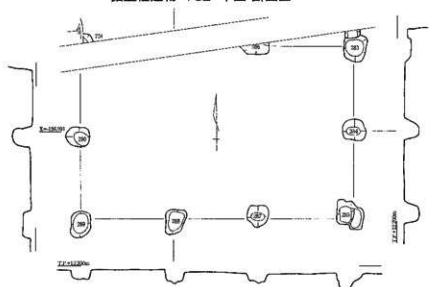
B区 第7面 平面图

第40图 B区第7·8面楼梯平面图 (S=1/250)

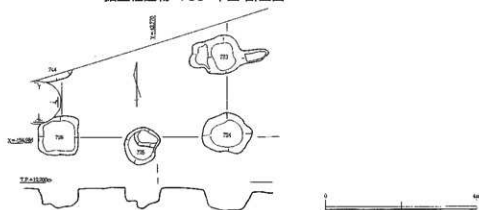
掘立柱建物 781 平面・断面図



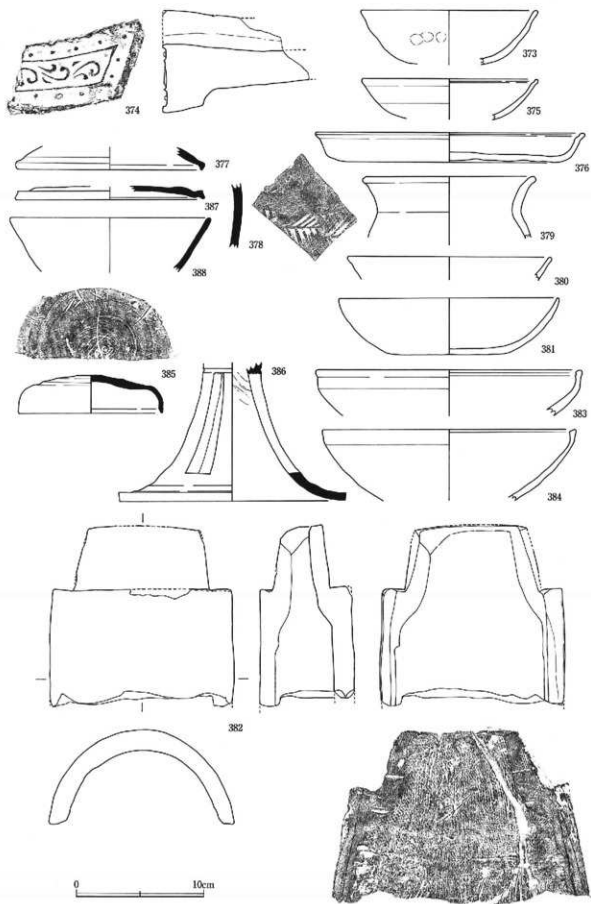
掘立柱建物 782 平面・断面図



掘立柱建物 783 平面・断面図



第41図 B区第7面掘立柱建物781・782・783平面・断面図 (S=1/100)



第42図 B区第7面ビット696・701・704・707・723・725・726、溝742出土遺物 (S=1/3)

第4節 C区の調査

1 基本層序 (第7図)

最上層は近現代の盛土(1)である。この下層に旧耕作土(39、59)がある。旧耕作土の下層は25Y5/2暗灰黄色砂質土(40)、5Y6/1灰色砂質土(51)、7.5Y6/1灰色砂質土(60)である。調査区の東西で色調の違いは大きい、土質は共通で、細砂～中砂および細礫を多く含んでいる。本層上面が第1面である。その下層には砂や砂質土が幾層も堆積している。その下層にある5Y5/1灰色粘土(46)は調査区全体に広がる安定した土層である。本層上面が第2面となる。なお、第2面から下層、すなわち中世以前の遺構面は、西が高く東が低い現在の地形とは逆に、西側が低く、東側が高くなっている。B区とC区の調査区間を通る南北の里道付近が最も低くなるようであり、B、C両区の遺構面数の違い、対応すると考えられる遺構面のレベルの違いなどは、こうした地形に起因するようである。第2面の下層は主に粘土が約50cmほどの厚さで3、4層堆積している。その下層にある7.5YR4/1褐灰色砂礫混土(22)は、調査地周囲で広範に認められる土層である。本層上面が第3面である。この下層は10YR6/8明褐色粘土(23)である。本層上面が第4面である。また本層が地山層となる。

2 遺構と遺物

(1) 第1面(第44図)

本面は近世の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+124～128mである。本面では井戸、土坑、溝など多くの遺構を検出した。B区同様、溝は近代の遺構だが、井戸など集落関係の遺構は近代以降の遺構である。

溝104 南北方向の溝で、規模は幅0.88m、深さ0.48～1.0mである。遺物は近世の陶磁器片などが出土した。

溝5 南北方向の溝で、規模は幅2.0～3.0m、深さ0.83～1.35m程度である。遺物は近世の陶磁器片などが出土した。

溝9 南北方向の溝で、規模は幅0.4～0.95m、深さ0.26～0.36m程度である。遺物は近世の陶磁器片などが出土した。

溝14(第43図) 南北方向の溝で、規模は幅1.6m、深さ0.5m程度である。瀬戸小皿(394)など近世の陶磁器片が出土した。

溝222 南北方向の溝である。削平のために、本来の溝底部近くのみが残っていた。現状の規模は幅0.34m、深さ0.1mである。近世の陶磁器片などが出土した。

溝19 南北方向の溝で、規模は幅1.0m、深さ0.16～0.27mである。近世の陶磁器片などが出土した。

溝202 南北方向の溝である。削平のために、本来の溝底部近くのみが残っていた。現状の規模は幅0.42m、深さ0.06mである。近世の陶磁器片などが出土した。

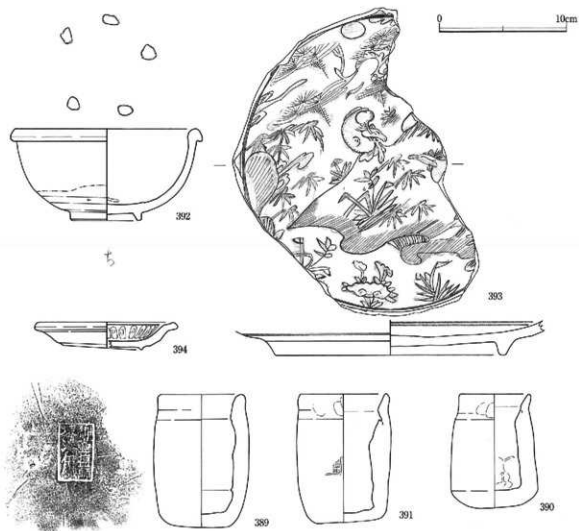
溝201（第43図） 東西方向の溝で、規模は幅1.0～1.7m、深さ0.24mである。近世の焼塩壺（390）などの陶磁器、土器や瓦が多く出土した。溝中には貯水施設と考えられる土坑203がある。乱雑ではあるが、杭や板による土留めが施されていた。

これらの溝のうち、南北方向の溝5、14、202、222は規模も大きく、間隔はほぼ11mであることから、水田に伴う水路であると考えられる。なお、東西方向の溝201は、南北方向の溝14、222を切っており、南北方向の溝より新しい。

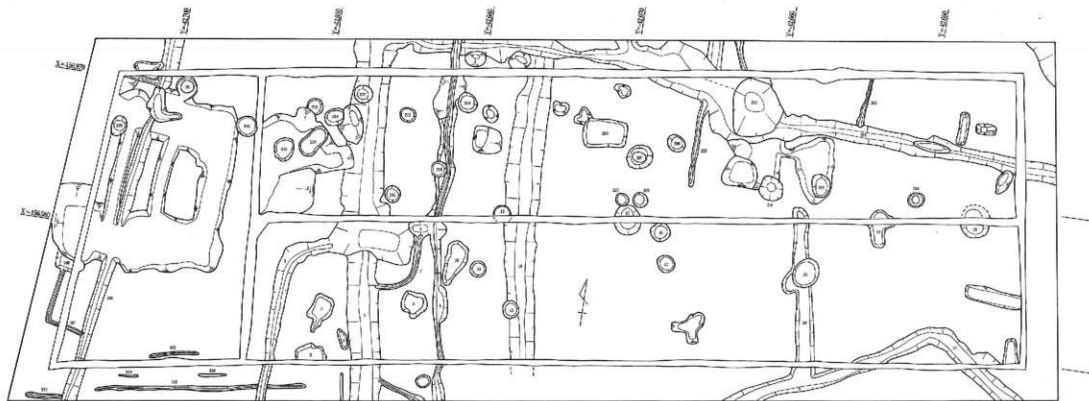
井戸（第26図） 井戸は28基検出した。近世～近代の陶磁器、土器、瓦が多く出土したが、完形に復元できるものはほとんどなかった。井戸214から出土した近世の焼塩壺（389）には「御壺塩師堺湊伊織」の刻印がある。

（2）第2面（第44図）

本面は鎌倉時代前期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.1～12.4mである。本面では条里型水田を検出した。畦畔6条の他、土坑、溝、鋤溝、足跡を検出した。



第43図 C区盛土、第1面井戸214、溝14・201、第1面下層出土遺物（S=1/3）

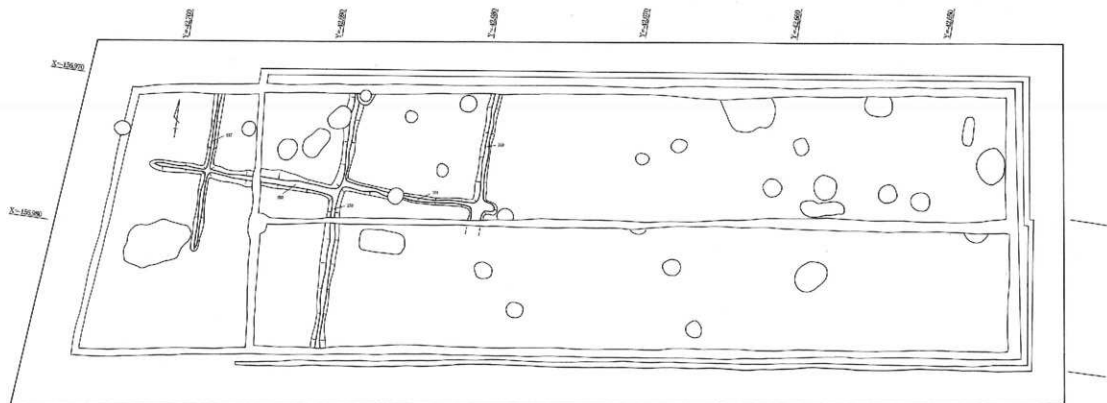


C区 第1面 平面图

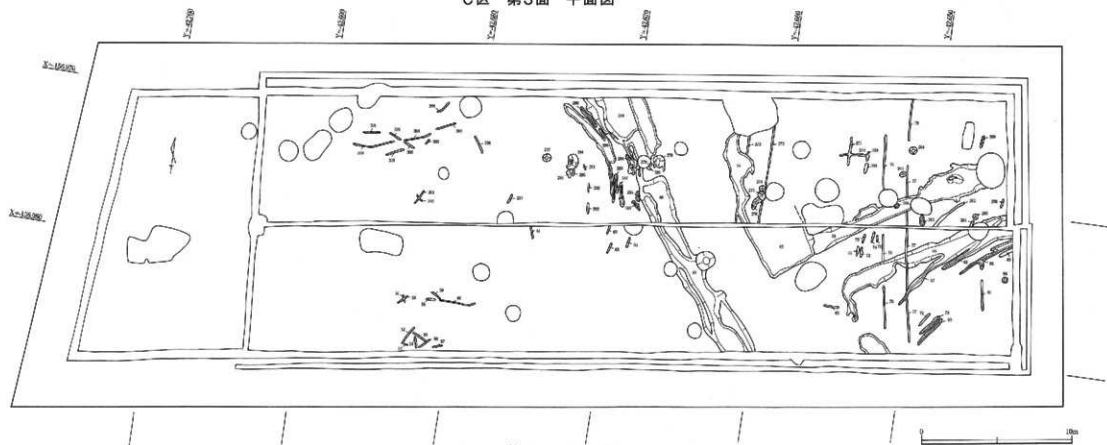


C区 第2面 平面图

第44图 C区第1·2面遺構平面图 (S=1/250)



C区 第3面 平面图



C区 第4面 平面图

第45图 C区第3·4面遺構平面图 (S=1/250)

畦畔27 南北方向の畦畔で、規模は幅0.5m、高さ0.14mである。

畦畔28 南北方向の畦畔で、規模は幅0.7～1.0m、高さ0.11mである。

畦畔29 南北方向の畦畔で、規模は幅0.65m、高さ0.1mである。

畦畔30 南北方向の畦畔である。後世の削平や攪乱の影響が著しいが、中央に溝が通る人畦畔であったと考えられる。規模は幅約2.3m、高さ0.07mである。

畦畔31 南北方向の畦畔で、規模は幅0.5～0.6m、高さ0.07mである。

畦畔32 東西方向の畦畔で、規模は幅0.5m、高0.19mである。

なお、畦畔の間隔は、畦畔27と28が10.8m、畦畔28と29が14.0m、畦畔29と30が9.8m、畦畔30と31が8.8mとなっており、一定していない。

鋤溝 調査区の東端部で鋤溝を検出した。多数の鋤溝が重複しているが、大半が南北方向である。深さはいずれも5cm程度であった。埋土は2.5Y6/2灰黄色細砂である。

足跡 調査区の全面で人と牛の足跡を検出した。

この他の主な遺構として土坑226があるが、これは第1面の遺構を見逃していたものである。備前焼の徳利(404)など近世の陶磁器が出土した。

(3) 第3面(第45図)

本面は平安時代前期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+11.7～12.1mである。本面は削平が著しかったが、比較的残りのよかった調査区西半部で条里水田を検出した。

畦畔117 南北方向の畦畔で、規模は幅0.45～0.6m、高さ0.06mである。

畦畔39 南北方向の畦畔で、規模は幅0.6～0.85m、高さ0.1mである。

畦畔249 南北方向の畦畔で、規模は幅0.6～0.8m、高さ0.07～0.1mである。

畦畔251 南北方向の畦畔で、規模は幅0.5～0.7m、高さ0.05～0.09mである。

畦畔252 南北方向の畦畔で、規模は幅0.75～1.1m、高さ0.6～0.11mである。

なお本面の畦畔の間隔は、畦畔117と39、畦畔39と249とも約9.0mである。第2面の畦畔とは位置も間隔も異なっていた。

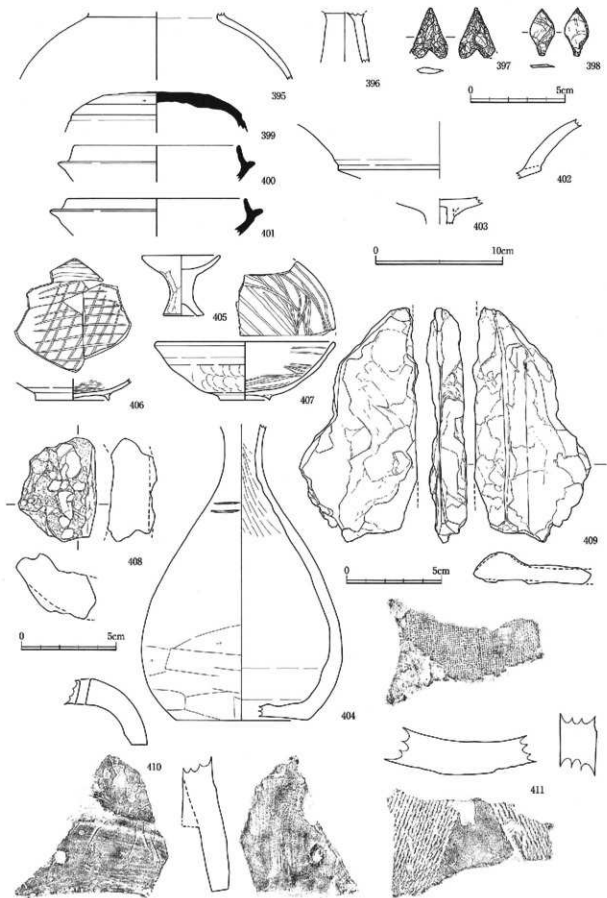
足跡 調査区西端近くで人と牛の足跡を検出した。

(4) 第4面(第45図)

本面は奈良時代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+11.4～12.0mである。本面では溝、土坑、轍、足跡を検出した。

道路状遺構 本調査区においてもB区同様の道路状遺構を検出した。溝65、66、40からなり、T字形を呈している。

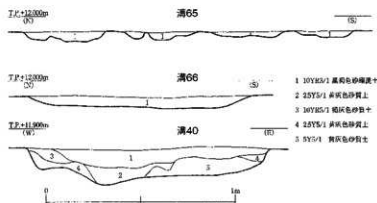
溝65(第47図) D区から伸びる北東-南西方向の溝であるが、途中で直角に屈曲し、南東-北西方向の溝となる。規模は幅0.85～3.75m、深さ4～6cmである。土師器、須恵器の小片が出土



第46图 C区第1面土坑256、第2面直上、同面下層、第3面下層、第4面下層出土物 (S-1/2·1/3)

した。

溝66 (第47図) 溝65と2.2～2.5mの間隔をあけて並行に伸びる北東-南西方向の溝である。規模は幅0.4～1.3m、深さ4～6cmである。溝65と同様に、途中で屈曲し、北西-南東方向に伸びていくように見えるが、途切れているため断定できない。遺物は出土しなかった。



第47図 C区第4面溝40・65・66断面図 (S=1/20)

溝40 (第47図) 南東-北西方向の溝である。規模は幅1.5～3.1m、深さ0.1～0.2mである。土師器、須恵器の小片が出土した。溝40と溝65の間隔は3.5～3.8mである。

轍 本調査区では轍を検出した。溝272と273、溝76と77が組み合わさる。車輪の間隔は芯々間で1.55mである。轍の断面形は長方形もしくは台形であり、幅5cm、深さは3～5cmである。埋土は粗砂及び礫を多く含んだ10YR4/1褐灰色砂質土である。遺物は出土しなかった。轍は道路状遺構の埋土上面から切り込んでおり、道路状遺構の溝より後出である。

(5) 包含層出土遺物

第1面下層 (第43図) 近世の国産陶磁器、土器、瓦等その他、青花大皿 (393) が出土した。なお、この青花大皿は第2面を覆う砂層 (第7図C区⑥55層) から出土している。

第2面直上 (第46図) 瓦器碗 (407)、土師器片などが出土した。

第2面下層 (第46図) 中世の瓦器碗 (406)、土師器皿・ミニチュア高杯 (405)、丸瓦 (410)、平瓦 (411) の他、籬羽口、鉄滓 (408)、鉄鋤と考えられる鉄製品 (409) などが出土した。

第3面直上 (第46図) 土師器の小片、サヌカイト製の石鏃 (397) が出土した。

第3面下層 (第46図) 古墳時代の須恵器杯身 (400、401)、杯蓋 (399)、土師器高杯 (396、402、403) などが出土した。この他、石鏃 (398) が出土している。

第4面直上 (第46図) 土師器壺 (395) など、古墳時代～奈良時代の須恵器、土師器の小片が出土した。

その他の遺物 (第43図) 第1面上層の盛土・整地土からは、陶器小鉢 (392)、焼塩壺 (391) など、近世の陶磁器、土器や瓦が出土した。焼塩壺 (391) は割れているが、刻印の一部「塩師」が残っている。

第5節 D区の調査

1 基本層序 (第7図)

最上層は近現代の盛土(1)である。この下に整地層(63～65)がある。旧耕作土は攪乱のためあまり残っていなかった。この下層が10Y6/1灰色砂質土(66)である。砂礫を多く含む土層で、本層上面が第1面である。この下層には2.5Y6/2灰黄色砂(67)が5cm程度の厚さで堆積している。本層は細砂が主体で、礫はほとんど含んでいない。本層に覆われた5Y5/1灰色粘土(46)上面が第2面である。この下層にはN7/灰白色粘土(68)、N6/灰色粘土(69)、10Y4/2灰黄褐色粘質土(70)が堆積している。(68)～(70)は下層ほど色調が暗く、砂礫を多く含んでいた。それぞれの層上面で精査をしたが、遺構はなかった。その下層にある7.5YR4/1褐灰色砂礫粘土(22)上面が第3面である。本層は砂礫を多く含んでおり、こげ茶色～黒色を呈する。B、C区において説明したように、本調査区内に広く確認されている。本層は、調査区西端部では約20cmと厚く堆積しているが中央部より東では5cm程度であった。この下層は10YR6/8明褐色粘土(23)である。かたく締まり、粘性が高い層である。本層上面が第4面である。また本層が地山層となる。

2 遺構と遺物

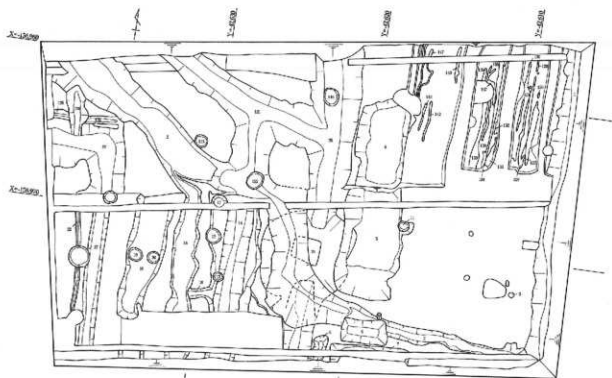
(1) 第1面 (第48図)

本面は近世～近代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.5～12.65mである。西が最も高く、東に向かい緩やかに低くなっている。本面では井戸、土坑、溝、鋤溝など多くの遺構を検出した。本面は攪乱と削平が著しいが、近世においては水田であったと考えられる。B、C区同様、用水路と考えられる規模の大きい溝と鋤溝が近世の遺構であり、井戸など集落関係の遺構はいずれも上層から掘り込まれた近代以降の遺構であった。

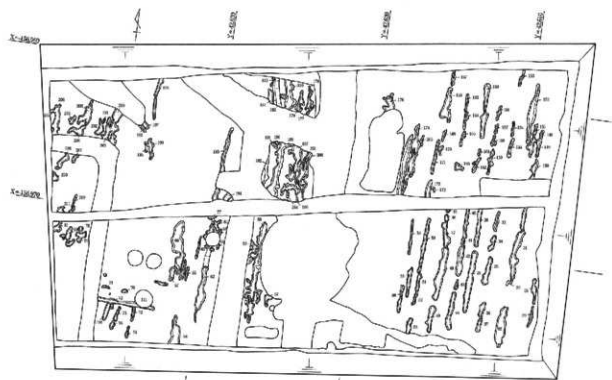
溝2 (第49、50図) 南東-北西方向の溝である。規模は幅2.8m、深さ0.8～1.2mである。本溝は溝25、26を切っており、本調査区内で検出した主要な溝の中では最も新しく、あるいは時期は近代まで下がるかもしれない。埋土からは備前焼徳利(420)などの近世陶磁器や石臼(422、423)が出土した。

溝16 (第50図) 南北方向の溝である。溝2から派生した溝と見られるが、攪乱のため確認できなかった。規模は検出長8.6m、幅2.5m、深さ0.5mである。遺物は近世の陶磁器や焼塩壺(421)などが出土した。

溝25 南北方向の溝である。規模は幅2.5～3.3m、深さ1.0～1.2mである。埋土の様相は次に報告する溝26と同様である。近世の陶磁器類が少量出土した。また本溝には大規模な土坑24が付随する。土坑24の平面形は隅丸方形で、規模は長径6.6m、短径6.2m、深さは2.2m程度である。掘方の下半部の平面形は整った方形となり、垂直に掘削されていた。崩落の危険があったため十分



第1面



第2面

0 10m

第48图 D区第1·2面遺構平面図 (S=1/250)

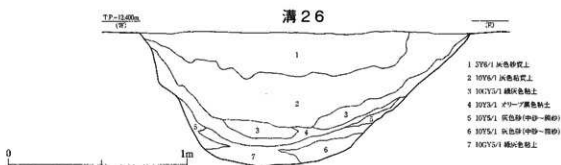
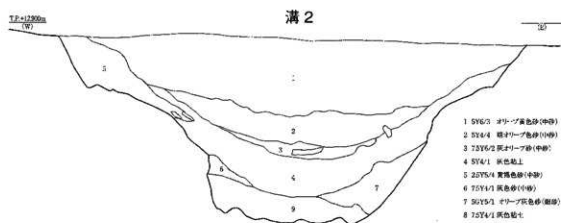
な確認はできなかったが、元は枠が設置されていたものと推測される。ただし、抜き取ったか、腐朽したかにより、調査時には枠は確認できなかった。また、溝25と土坑24の前後関係を確かめるため、平面及び断面で埋土を確認したが、溝25との切り合いは認められず、同時に埋積していると考えられた。このことから、本土坑は溝25中に設けられた貯水施設と考えられる。

溝26 (第49、50図) 南北方向の溝である。溝25と平行しているが、調査区北側において溝121に合流し、そこより北には伸びていない。規模は幅2.5m、深さ0.8～1.0m程度である。近世の陶磁器類が出土した。

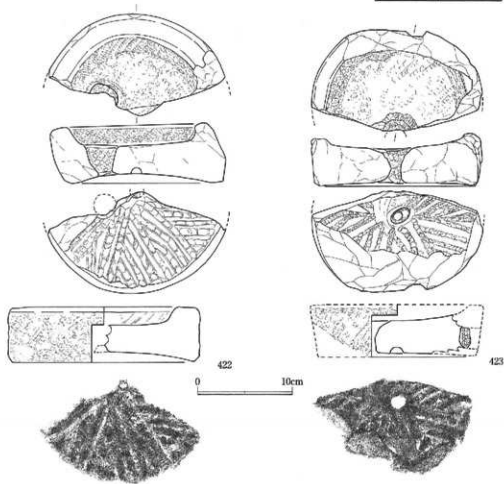
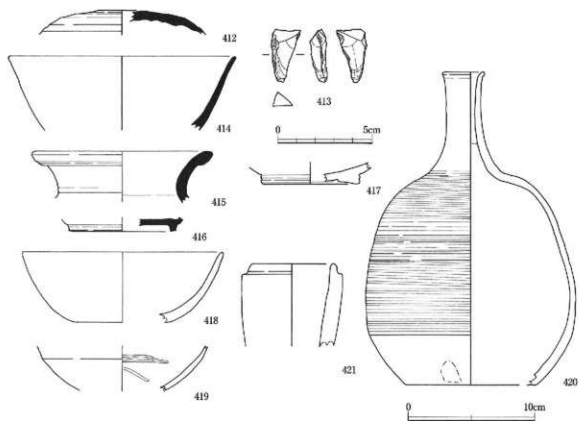
溝27 南北方向の溝で、途中で西側に直角に曲がり、C区第1面溝201へと続く。規模は幅2.6m、深さ0.5m程度である。埋土は上層が10GY5/1緑灰色シルト、下層が5GY4/1暗オリーブ灰色シルトである。遺物は近世の陶磁器片が出土した。

溝121 溝25から分岐した南東-北西方向の溝である。規模は幅2.2m、深さ1.0m程度である。近世の陶磁器片が出土した。

鋤溝 本遺構面は近現代の建物等構造物による攪乱、削平が著しいが、それを免れた調査区北東隅において鋤溝を検出した。いずれも南北方向で、規模は幅0.1～0.4m程度、深さは1～5cm程度である。遺物は土器小片がごく少量出土したのみである。



第49図 D区第1面溝2・26断面図 (S=1/20)



第50图 D区第1面溝2·16、第4面溝224、第2面下層、第3面直上出土遺物 (S=1/2·1/3·1/4)

(2) 第2面 (第48図)

本面は平安時代後期～鎌倉時代前期の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+12.1～12.4mである。第1面同様、東に向かい緩やかに低くなっている。本面直上は2.5Y6/2灰黄色砂(第7図67層)に覆われており、遺構面の検出は容易であった。本面では鋤溝と足跡を検出した。畦畔は検出していないが、水田面であろう。

鋤溝 調査区の全面で鋤溝を多数検出した。大半が南北方向である。規模は、幅0.1～0.3m、深さは5cm程度のものが多い。中世の瓦器、土師器の小片が出土している。

足跡 調査区の全面で足跡を検出した。足跡は調査区の東半部では特に明瞭であった。多くは牛の足跡である。

(3) 第3面 (第51図)

本面は平安時代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+11.7～12.1mである。本面は遺構が少なく、溝5条を検出したのみであった。これらの溝からは遺物が出土していないが、本層のベース土となる7.5YR4/1褐灰色砂礫混土(第7図22層)はB、C区でも確認しており、対応関係は明確であることから、両地区の調査結果を踏まえ、平安時代前期の水田面であると考えている。

溝212 東西方向の溝である。規模は、検出長4.6m、幅0.9～1.25m、深さ3cmである。埋土は10Y4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

溝213 東西方向の溝である。規模は、検出長1.0m、幅0.2～0.5m、深さ2cmである。埋土は10Y4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

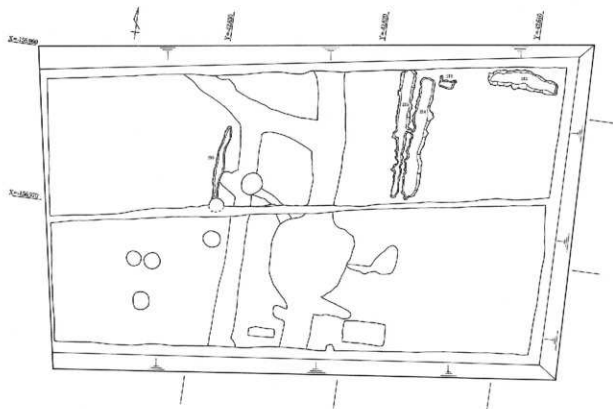
溝214 南北方向の溝である。規模は、検出長8.2m、幅0.8～1.35m、深さ2cmである。埋土は10Y4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

溝215 南北方向の溝である。規模は、検出長8.5m、幅0.3～0.85m、深さ2cmである。埋土は10Y4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

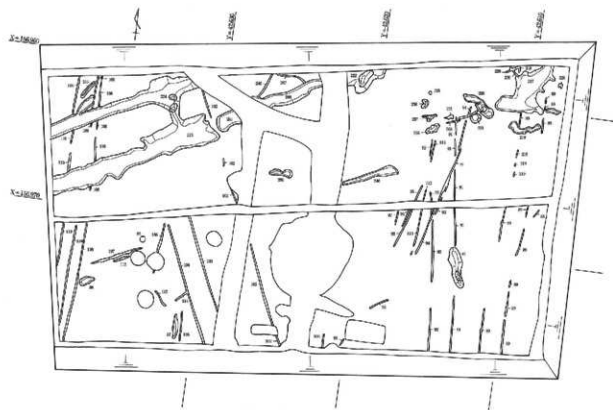
溝216 南北方向の溝である。規模は検出長1.9m、幅0.4～0.65m、深さ4cmである。埋土は10Y4/2灰黄褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。

これらの溝はいずれも幅広いが非常に浅く、平面形も凹凸の目立つ不整なものである。南北方向の溝214と溝215は近接して並行しており、東西方向の溝212と溝213も部分的にしか残っていないが並行する溝であった可能性がある。また、溝215と溝216の距離はほぼ11mである。こうした点から、これらの溝は、畦畔の脇によく認められる浅い窪みである可能性が高く、溝212と溝213および溝214と215にはさまれた幅0.2～0.3m程度の部分が畦畔であったと推測される。

足跡 ほぼ調査区の全面で認められたが、輪郭は非常に不明瞭であった。



第3面



第4面



第51图 D区第3·4面遺構平面图 (S=1/250)

(4) 第4面 (第51図)

本面は奈良時代の遺構面である。遺構面のレベルはT.P.+11.4～12.0mである。本面では幅広い溝2条で構成される道路状遺構、土坑、轍、足跡を検出した。

道路状遺構 (第50図) 溝222・223・249・251と224で構成される遺構である。

溝224 南西-北東方向の溝である。規模は、北側の幅0.8～1.1m、深さは0.17mである。埋土は7.5YR4/1褐灰色砂礫混土である。須恵器杯蓋(412)など古墳時代後期～奈良時代の須恵器、土師器の小片が出土した。また、サヌカイト剥片(413)が出土している。

溝222・223・249・251 南西-北東方向の溝である。規模は幅0.6～1.7m、深さは0.08～0.11mである。埋土は7.5YR4/1褐灰色砂礫混土である。溝224との間隔は約2.5mである。土師器、須恵器の小片が出土した。

轍 調査区の全面で検出した非常に細い溝である。規模はいずれも幅6～8cm程度、深さは2～5cm程度、断面形は長方形である。埋土は7.5Y3/3暗褐色粘土である。こうした溝が2条1組となって検出された。轍は本調査区内で7組(溝89と90、91と92、93と95、94と96、97と113、103と104、108と110)を確認している。両輪の間隔は芯々間で1.45～1.50mとほぼ一定である。また溝103と104の中央において、連続する牛の足跡を確認したことから、これらの小規模な溝は轍と断定してよいであろう。轍の方向は道路状遺構とは異なっており、道路状遺構との切り合いを確認できたものは、すべて轍が道路状遺構を切っていた。古墳時代後期～奈良時代の土師器、須恵器片が少量出土している。

土坑群 調査区北東隅で、不定形の土坑群を検出している。いずれも埋土は7.5Y3/3暗褐色粘土で、轍の埋土とよく似ているが、水分が多く、締まりが悪い。また、掘方は明瞭ではなく、不規則な踏み込み痕のようであった。遺物は土師器小片が出土している。

(5) 包含層出土遺物

第2面下層出土遺物 (第50図) 瓦器椀(419)・小皿、土師器片の他、青磁椀(418)、緑釉陶器皿(417)など平安時代後期～中世の遺物が出土した。

第3面直上 (第50図) 須恵器壺(415)・杯身(414、416)など、古墳時代後期～奈良時代の遺物が出土した。

第6節 E区・F区の調査

1 調査方法

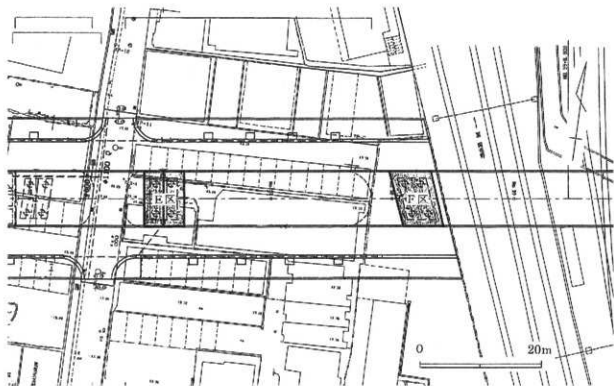
調査場所は、市道天美駅前南北線から近鉄南大阪線までの間、道路が近鉄南大阪線をオーバーパスする際の橋脚部分、2箇所である。調査範囲は、共に工事掘削範囲の幅6.5m長さ9mで、調査面積は、2箇所合わせて117㎡である。西側調査区をE区とし、東側調査区をF区とし、両者は東西に35m離れている（第52図）。

2 調査結果

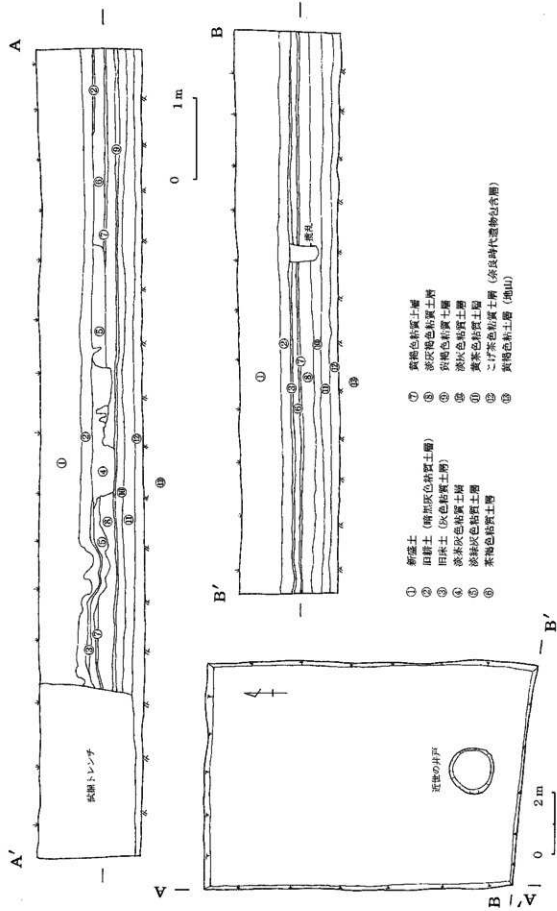
(1) E区の調査

調査前までは、駐車場として使われていた。E区の層序は、厚さ60cm程の盛土の下に、旧耕土・床土層がある。田圃上に直接盛土して地上げを行っている。田圃の下には、中世～近代にかけての層に2枚の田圃の層がある。瓦器や土師器などが出土している。その下に、奈良時代の田圃と考えられる黄褐色粘土層があり、須恵器・土師器が出土する。その下に、奈良時代の遺物包含層であるこげ茶色粘土層がある。この層は、調査区全面にわたって堆積しており、汚くねばり粘土層であった。奈良時代の須恵器・土師器の細片のみが出土した。その下に、地山である黄褐色粘土層があり、厚さ40cm以上続いていた。洪積段丘層と考えられた。遺構面の高さは、調査区の西側が東側に比べると、3～6cm緩やかに下がっていた。

E区の遺構は、調査区南側で、南北1.4m、東西1.45mの円形掘方を持つ素掘りの井戸が検出された。上層からの掘り込み面が認められたので、近・現代の井戸と考えられた。内部は、川砂で



第52図 E区・F区調査区位置図



- ① 新産土 (暗灰褐色粘質土層)
- ② 田原土 (灰褐色粘質土層)
- ③ 田原土 (灰褐色粘質土層)
- ④ 淡茶灰色粘質土層
- ⑤ 淡茶灰色粘質土層
- ⑥ 茶褐色粘質土層
- ⑦ 黄褐色粘質土層
- ⑧ 淡灰褐色粘質土層
- ⑨ 黄褐色粘質土層
- ⑩ 淡灰褐色粘質土層
- ⑪ 黄褐色粘質土層
- ⑫ 淡茶灰色粘質土層
- ⑬ 黄褐色粘質土層 (奈良時代遺物出土層)
- ⑭ 淡茶灰色粘質土層 (地山)
- ⑮ 黄褐色粘質土層 (地山)

第53図 E区平面・断面図

丁寧に埋め戻されていた。その他に、遺構は認められなかった。ただし、最下層で、こげ茶色粘土層を除去すると、地山面上に、直径10cm内外の牛の足跡が多数検出された。埋土は、こげ茶色粘土層で、上層からの踏み込みによるものと考えられた。地山である黄褐色粘土層上に、はっきりとスタンプされ、このこげ茶色粘土層上に牛を利用した田のあったことが判明した。奈良時代の牛耕の痕跡、もしくは田圃造成時の痕跡と考えられた。

(2) F区の調査

東西6.5m、南北9mの調査区で、調査面積は、59.5㎡。掘削前は、舗装されて駐車場となっていた。掘削すると、平均60cmほど盛土がされていた。調査区北東部は、地中深く攪乱を蒙っていた。新盛土の下には、旧の耕土層・床土層がある。耕土層の厚さは20cm、床土層は10cmほどであった。床土層の下に、2枚の遺物包含層がある。上層包含層は、厚さ10cmほどの暗灰黄色粘質土層で、中世～近世にかけての層である。下層包含層は、厚さ15cmほどの灰色粘質土層で、瓦器や土師器・須恵器などの細片を含んでいた。この層は、砂・粘土が混じり合い、部分的に黄灰色粘土がブロック状になって混在していることから、中世に置かれた土層であることが分かる。この灰色粘質土層の下に、部分的に灰黄色砂質粘土層が堆積しており、この層も置土層と判断された。これらの層の下に、汚い灰褐色粗砂層があり、調査区全体に堆積していた。河川の堆積による層と考えられ、無遺物であった。この厚さ10cmほどの層の下に黄色～灰黄色粘土層が堆積しており、無遺物で、洪積段丘の粘土層と考えられた。

調査区中央北寄りの箇所には、長さ90cm、幅45cmの攪乱坑があったが、それ以外は良好に遺構が残存していた。ピットや土坑・轍などの遺構が汚い灰褐色粗砂層上に検出された。遺構面の高さは、調査区の北と南では、南側の方が北側に比べて8cmほど高かった。

土坑1 長さ60cm、幅35cm、深さ10cm。平面形は小判形。底は平ら。埋土は汚い暗茶褐色粗砂層。無遺物。

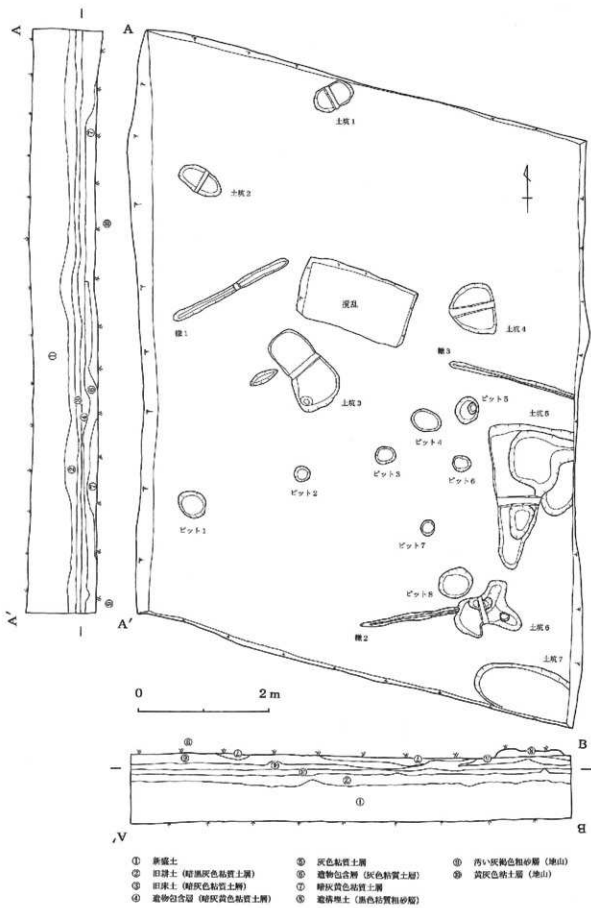
土坑2 長さ68cm、幅35cm、深さ5cm。平面形は楕円形。底は平ら。埋土は汚い暗茶褐色粗砂層。無遺物。

土坑3 長さ132cm、幅60cm、深さ9cm。平面形は隅丸長方形。底は平ら。南の端が外側に膨らんでいて、底が深くなっている(15cm)。埋土は汚い暗茶褐色粗砂層。無遺物。

土坑4 長さ77cm、幅70cm、深さ13cm。平面形はいびつな半月形。底は平ら。埋土は濃茶色粘土層。無遺物。

土坑5 長さ210cm、幅133cm以上、深さ23cm。平面形はいびつな楕円形の土坑が、2・3重重なっている。底も部分的に深くなっていて、お互いが切り合っている。埋土は上層がこげ茶色粘質粗砂層で、下層が黒色粘質粗砂層である。遺物が出土せず、時期は不明である。その東端は、調査区外へと伸びている。

土坑6 長さ100cm、幅70cm、深さ15cm。平面形は不整形な楕円形の集合。埋土は黒色粘質粗砂層。底の深さも一定しない。底面に5cm大の小穴が多数認められる。先が2つに割れた牛の足跡もあつ



第54図 F区平面・断面図

たので、踏み込みによるものか。無遺物。

土坑7 長さ150cm以上、幅70cm以上、深さ10cm。平面形は恐らく楕円形。底は全体として平らだが、5cm大の小穴が多数認められる。埋土は黒色粘質粗砂層で、古墳時代中期の土師器小型壺片が出土した。その南端と東端が調査区外に伸びている。なお、この土坑7の埋土上に、轍の跡が検出されていることにより、この遺構は、轍よりは古い時期の遺構であることが判明している。

轍1 長さ2m、幅10cmの轍の跡が検出された。埋土は灰色粘質土で、時期不明の土師器片が出土した。轍と轍の幅は、芯々で145cmであった。轍の向きは北東である。

轍2 長さ1.5m、幅8cmの轍の跡が検出された。埋土は灰色粘質土で、遺物は出土しなかった。轍と轍の幅は、芯々で145cmであった。轍の向きは東北東である。

轍3 長さ2m、幅5cmの轍の跡が片方のみ検出された。埋土は、灰色粗砂で、遺物は出土しなかった。轍の向きは、東に向いていた。

ピット1 長さ44cm、幅35cm、深さ12cm。楕円形。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット2 長さ24cm、幅25cm、深さ16cm。円形。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット3 長さ25cm、幅30cm、深さ9cm。楕円形。底は平ら。埋土は、暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット4 長さ30cm、幅43cm、深さ17cm。楕円形。底は平ら。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット5 長さ40cm、幅33cm、深さ20cm。楕円形。底は平らだが東端のみ深くなっている。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット6 長さ22cm、幅25cm、深さ15cm。楕円形。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

ピット7 長さ21cm、幅21cm、深さ8cm。円形。底は平ら。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

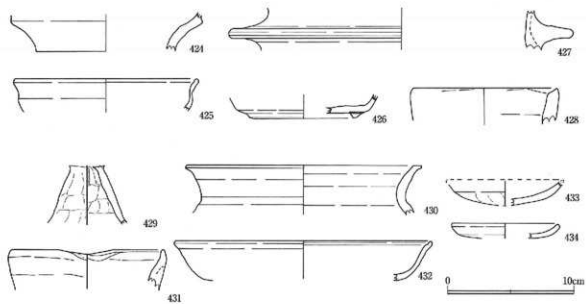
ピット8 長さ46cm、幅42cm、深さ25cm。楕円形。底は平ら。埋土は暗黒灰色粗砂層で、無遺物。

(3) 遺構のまとめ

・牛車の轍が検出された。C、D区の調査結果から奈良時代のものと考えられる。

・奈良時代の轍に切られていることで、それよりは古いことが明らかな時期の遺構が土坑やピットなど15基検出された。柱穴も、ピット1やピット2・ピット3は、間隔を違えて直線的に並ぶが、掘立柱建物跡とは考えられない。他の土坑も性格不明である。古墳時代中期の土師器片も出土したが、混入の可能性もあり、遺構の時期を決定できるものかは、明らかでない。

・F区で、遺構が発見されたことにより、堀遺跡の東端は、さらに近鉄線の下に伸びることが推定された。



第55図 E区包含層出土遺物



第56図 上：確認・試掘調査No.9トレンチ全景（東から）、下：同機検出状況（西から）

第4章 まとめ

今回の調査は、都市計画道路堺港大堀線建設工事予定地という細長い調査地内に、A～F区まで6調査区を設定し、調査したものである。調査の結果、A、C、Dでは4面、B区では8面もの遺構面を検出した。遺構面が浅く、削平を受けていると考えられるE、F区においても、遺構面を検出した。

調査区のうちE、F区は、橋脚部分の調査であるため離れて位置しているが、A～D区については、A、B区間が小規模な水路によって、B、C区間が里道によって間隔があいているものの、ほぼ連続している。しかしながら、こうした水路、里道は条里等、いわば歴史的な区画でもあるらしく、わずか数m～10m程度の距離を隔てるだけで土層の様相が異なり、調査区間の対応関係についても判然としない場合が多かった。今回の整理作業を通じて、遺構面の時期がほぼ明らかになったことから、最後に全体のまとめとして、現段階で考える遺構面の対応関係に基づき、堀遺跡の遺構の変遷を整理しておく。

(1) 奈良時代後半（8世紀後半）

当該期の遺構面は、A区第4面、B区第8面、C区第4面、D区第4面、E、F区地山面である。本面で検出した主要な遺構は、2条の溝が2～3mの間隔をあけて平行に伸びる道路状遺構と轍である。道路状遺構は最初にD区の調査で検出し、その規模と直線的に伸びる形状から「道路状遺構」の名称を付したが、その続きを検出したC区ではT字状に屈曲していた。また最後に調査したB区の道路状遺構はC、D区のそれとは連続しないものであった。現時点ではその性格は特定できないが、このような遺構が幾条もあることが推測されることから、本遺構は水田の畦畔の可能性も考えられる。いずれにしても条里とは完全に方向を異にしており、当地における条里水田施行前の段階を示していることは間違いと思われる。

(2) 奈良時代後半～平安時代前期（8世紀後半～9世紀前半）

当該期の遺構面は、B区第7面、C区第3面、D区第3面である。本面で検出した主要な遺構は、集落と条里水田である。集落はB区の西部で検出しており、5棟の掘立柱建物を復元することができた。また、B区東半部、C区、D区では条里水田を検出しており、当地における条里水田の施行時期が本時期に遡ることが明らかとなった。奈良時代の建物の存在は既往の調査でも確認されていたが、集落と水田の関係が明確にされた意義は大きい。

(3) 平安時代前期～中期（9世紀後半～10世紀代）

当該期の遺構面は、A区第3面、B区第6面である。本面で検出した主要な遺構は、A区では西除川の旧水路の一部と考えられる自然河川と堤、B区では井戸と南北方向の大畦畔である。A区の自然河川は本面から確認でき、以後近世までこの位置にあった。また、A区では堤の東に規模の大きな溝（溝30）があった。この段階では、自然河川沿いには水田はなかったようである。

B区では井戸（井戸269）が検出された。これは厚い板材と角材を組み合わせた非常にしっかりしたものである。本面では建物を構成するビット等はほとんど検出されていないが、その構造や、井戸の検出位置が第7面の掘立柱建物群の直上付近にあたることから、集落に伴う井戸であると思われる。また、大畦畦は、第7面で検出した南北方向の畦畔の直上にあたり、地割りを踏襲していると考えられる。この大畦畦は、その後、ほとんど位置を変える事なく室町時代まで維持されることになる。

(4) 平安時代後期～鎌倉時代前期（11世紀代～13世紀前半）

当該期の遺構面は、A区第3面、B区第4、5面、C区第2面、D区第2面である。この時期の主要な遺構は自然河川と条里水田である。本面において特に注目されるのは畦畔である。B区においては南北方向の大畦畔が2条ないし3条検出されているのに対し、C区においては小畦畔のみが検出されている。また、遺構面のレベルは、本文中にも述べたように、A区から東に向かい低くなり、B区とC区の境付近が最も低くなったあと、今度は再び高くなっていく。こうしたことから、B区において大畦畔を並行して配置しているのは、西除川の氾濫に備えた「高畦」として理解できるのではないかと考える。なお、A区において当該期の井戸（井戸11）を検出しており、集落の存在が予想される。井戸の西側は自然流路、東と南には水田を検出していることから、当該期の集落は今回の調査区北側に存在したものと想定できる。

(5) 鎌倉時代後期～室町時代（13世紀後半～15世紀代）

当該期の遺構面は、上下の遺構面の年代から推測したものであるが、B区第3面を考えている。この時期の遺構は条里水田である。本面は削平が著しいが、大畦畔が検出されている。

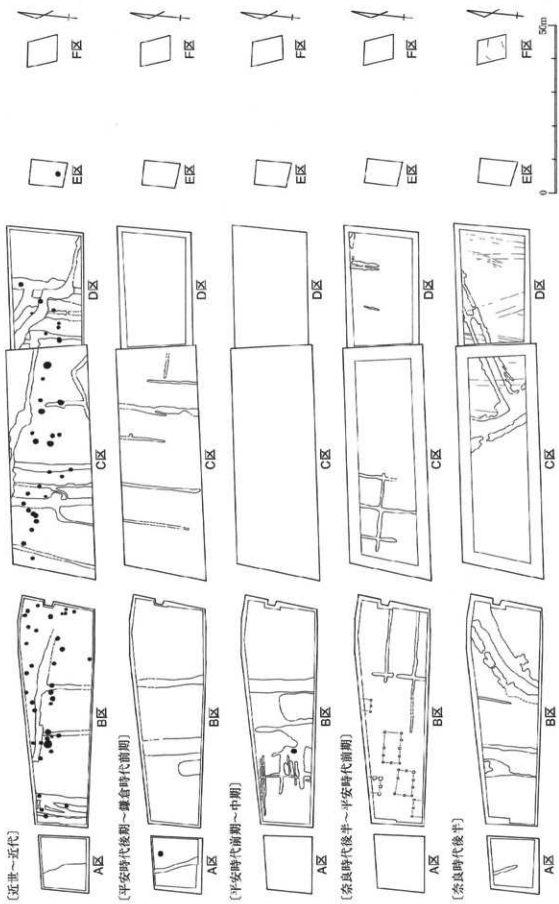
(6) 室町時代後期（15世紀代～16世紀代）

当該期の遺構面はA区第2面、B区第2面である。主要な遺構は水田である。全体に削平が著しいが、B区では大畦畔の痕跡と考えられる段を検出した。またA区では自然河川の肩に堤を検出した。

(7) 近世～近代（18世紀後半～19世紀後半）

当該期の遺構面はA～D区の第1面である。また対応する土層はE、F区でも確認されている。この時期の遺構の大きな特色は、南北方向の大規模な溝が数多く配されているということである。これらの溝は用水路と考えられ、出土遺物から江戸時代（後期）であると考えられる。溝の本来の掘り込み面が不明なものも多く、切り合いから溝の前後関係を判断できるものは少なかったが、同時に複数の溝があったことは確かであろう。また、D区の北東隅において鋤溝を検出しており、水田の存在を確認したが、水田と大規模な南北溝の関係は不明で、今後の検証が必要である。なお、B、C、D区において、南北方向以外の大規模な溝も検出しているが、これらの溝はすべて南北溝の埋土上面から掘削されていた。こうした用水路の付け替えは江戸時代後期～近代のことのようであり、その背景についても今後検証していく必要がある。

以上が、堀遺跡の5次に渡る調査結果である。



第57図 掘遺跡変遷図 (S-1/1100)

報告書抄録

ふりがな	ほりいせき							
書名	堀遺跡							
副書名	都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	2009-1							
編者名	地村邦夫・西口陽一							
編集機関	大阪府教育委員会							
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351 (代表)							
発行年月日	2010年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ほりいせき 堀遺跡	おおさかふまつばらし 大阪府松原市 あまみみなみごじょうの 天美南5丁目	27217	19	34° 35′ 02″	135° 32′ 06″	2004年3月～ 2007年3月	6,505	都市計画道路 堺港大堀線 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
おおまちいせき 大町遺跡	集落跡	古墳時代～中世	独立柱建物跡・ 井戸・道路状遺構・ 畔野・堰	須恵器・土師器・ 緑釉陶器・瓦・ 土馬・神功開宝		奈良時代の集落と水田を発見 した。		
要約	調査対象範囲は、東西260m、南北26mの範囲。5次の調査で、合計約6,500㎡を調査した。奈良時代後期の大型独立柱建物跡3棟や木枠井戸、水田跡などを検出した。神功開宝や須恵器、土師器などが出土した。							

大阪府埋蔵文化財調査報告2009-1	
堀遺跡	
- 都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査 -	
発行	大阪府教育委員会 〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06 (6941) 0351 (代表)
発行日	平成22年3月31日
印刷	石川特殊特急製本株式会社 〒540-0014 大阪府大阪市中央区竜造寺町7番38号

図 版





A区第1面(東から)



A区第2面(東から)



A区第3面(東から)



A区第3面井戸 11 (北から)



A区第4面 (東から)



B区第1面 (東から)



B区第2面 (北西から)



B区第3面 (西から)



B区第4面 (西から)



B区第4面畦畔185・186 (北から)



B区第5面 (東から)



B区第6面 (西から)



B区第6面井戸 269 (北から)



B区第7面 (東から)



B区第7面掘立柱建物 782 (北から)



B区第7面掘立柱建物 781・783 (南から)



B区第8面 (東から)



C区第1面 (東から)



C区第2面 (東から)



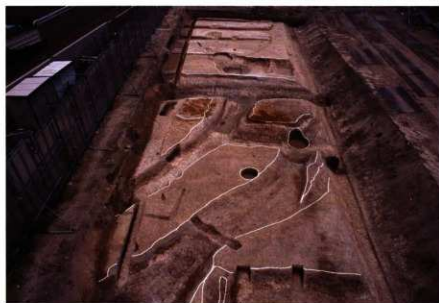
C区第3面 (西から)



C区第4面 (東から)



C区第4面溝 65・66 (北西から)



D区第1面 (西から)



D区第2面 (西から)



D区第2面鋤溝・足跡 (南から)



D区第4面 (西から)



D区第4面溝 223・224 検出状況 (西から)



E区調査区全景（南東から）



E区調査区南壁断面（北西から）



E区牛の足跡



F区調査区全景（北西から）



F区調査区全景（南西から）



F区調査区西壁断面（南東から）



47

第4面下層



49



48

第4面下層



74

第3面下層



71

第3面下層



第3面下層



68



77



78



76

第3面下層



82

第3面下層



72

第2面下層



14

第1面自然河川4



8

自然河川4



13



13

自然河川4



2

自然河川4



12

自然河川4



9

自然河川4



10

自然河川4



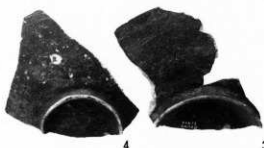
12

自然河川4



27

井戸 11



4

3

自然河川 4



33

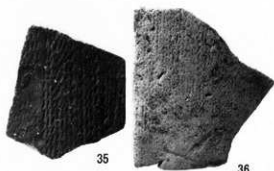
井戸 11



6

5

自然河川 4



35

36

井戸 11



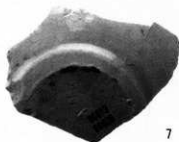
11

自然河川 4



37

井戸 11



7



7

自然河川 4



15

井戸 11



21

井戸 11



15

井戸 11



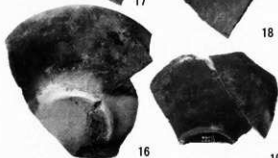
25

井戸 11



17

18



16

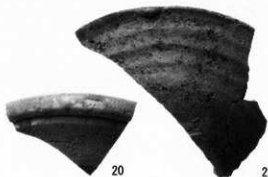
19

井戸 11



23

井戸 11



20

22

井戸 11



28



31



29

井戸 11



55



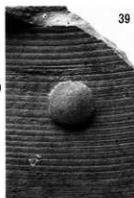
39



52

溝 30

溝 30



39



41

溝 30



56

溝 30



63

溝 30



50

溝 30



46



44

45



43

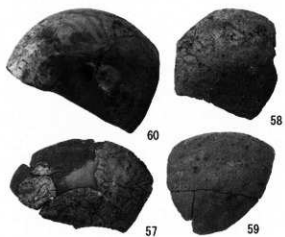
溝 30



51

溝 30

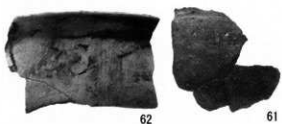
图版 17
A区第3面遺物



溝 30



溝 30



溝 30



溝 30



溝 30



溝 30



溝 30



溝 30



141

井戸 536



88

井戸 505



114

井戸 524



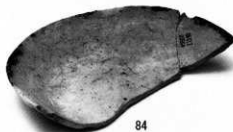
123

井戸 531



121

井戸 531



84

井戸 501



167

溝 10



115

井戸 524



132

井戸 534

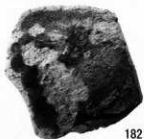


溝 521



188

第4面畦畔 185



182



181

第4面畦畔 185



190

第4面畦畔 184



187

第4面畦畔 185



169~173

第1面井戸 10



189

第4面土坑 174



124

第1面井戸 531



191



191

第4面直上 (実大)



117

第1面溝 13



233



235



234

第5面下層 (外面)



233

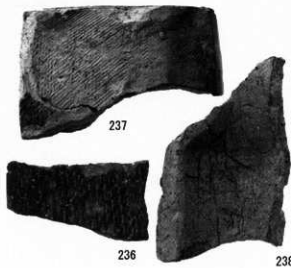


235



234

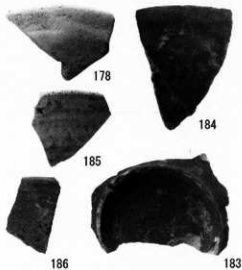
(内面)



237

236

238



178

184

185

186

183

第5面下層

第4面鈎溝 206 · 233 · 620 · 624 · 630



198

197

鉤溝 658



201

哇群 248



199



200

哇群 248



199

哇群 248



206

第5面下層

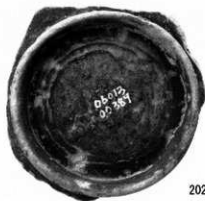


204



205

第5面下層



202

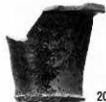
哇群 248



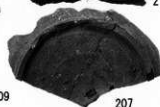
208



211



209



207

第5面下層

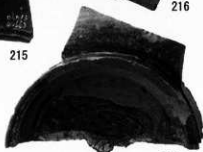
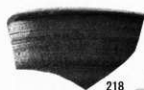


第5面下層



第5面下層

第5面下層



第5面下層



308

第6面畦畔 255



319



317



318



316

第6面溝 676・678



309



310

第6面溝 259



320



322



321

第6面ビット 681・682



312



311

第6面ビット 668



194

第5面鋤溝 659



313



314



315

第6面溝 672・674・671



196

第5面鋤溝 659



220

第5面下層



228

第5面下層



227

第5面下層



225

第5面下層



219

第5面下層



229

第5面下層



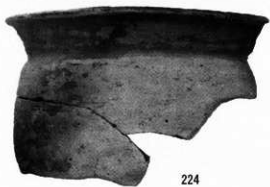
221

第5面下層



226

第5面下層



224

第5面下層



223

第5面下層



222



274

清 263



271



273

清 265



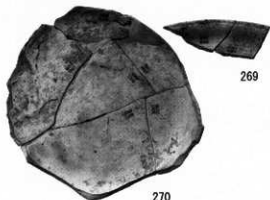
272

清 263



275

第5面下層



269

270

清 263



276

土坑 256



294



295

井戸 269



302

土坑 270

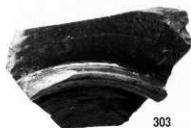


291



291

井戸 269



303

土坑 270



296

298

297

土坑 270



304

306



305

畦畔 255



300



301



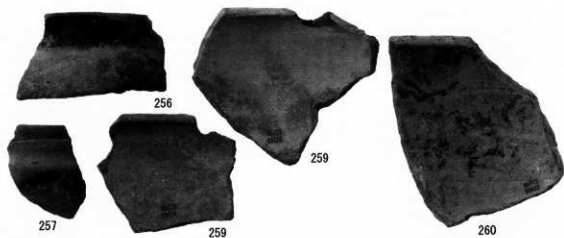
299

土坑 270

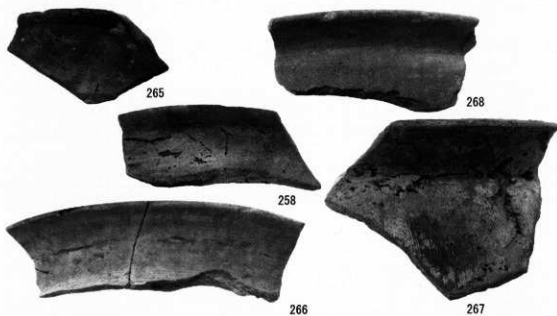


307

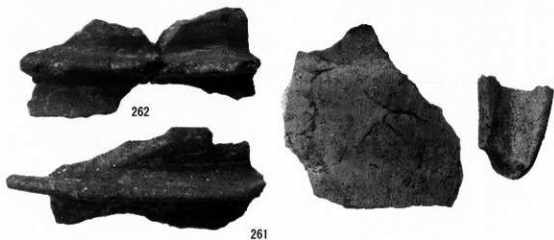
畦畔 255



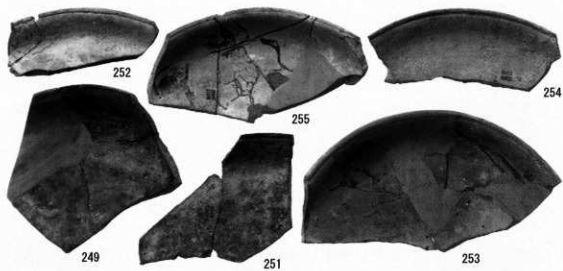
遺構 259



遺構 259



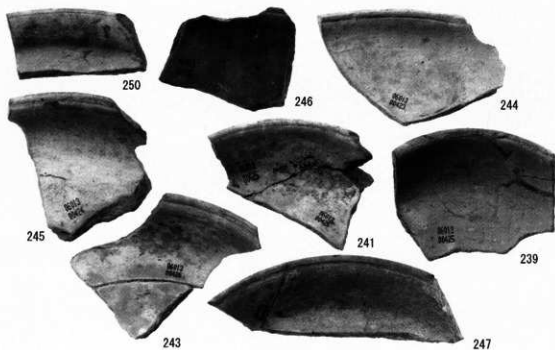
遺構 259



遺構 259



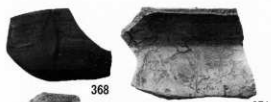
遺構 259



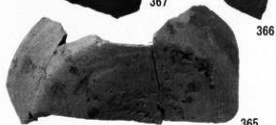
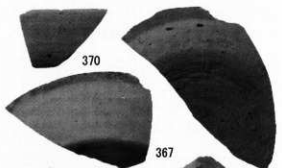
遺構 259



清 259



清 259



清 259



清 259



清 259



清 259



清 259



286

井戸 269



287

280

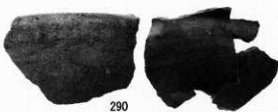
井戸 269



283

285

井戸 269



290

井戸 269



279

278

井戸 269



292

井戸 269



284

277

井戸 269



281

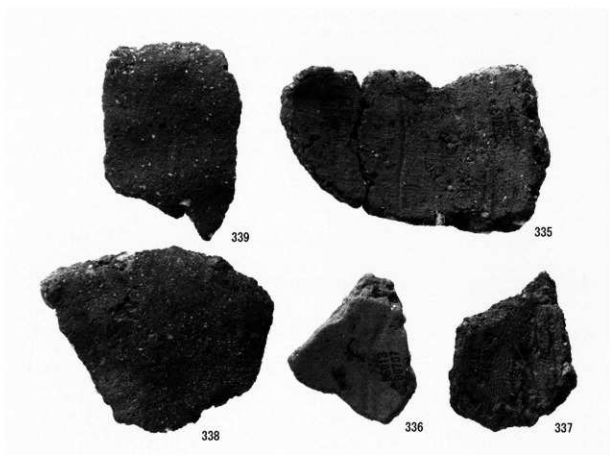
282

井戸 269



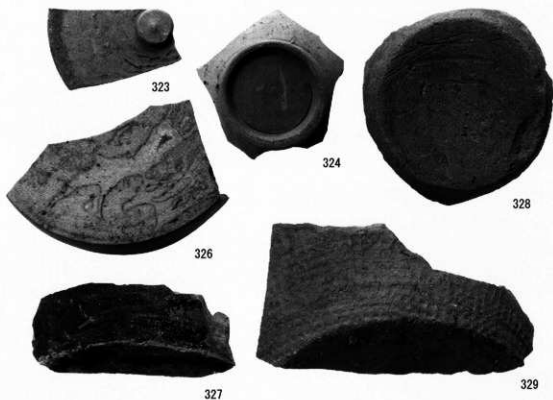
293

井戸 269



第6面下層





第6面下層



325

第6面下層



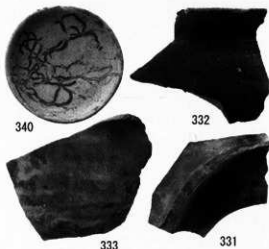
334

第6面下層



330

第6面下層



340

332

333

331

第6面下層



溝 742



ビット 280・282



土坑 271



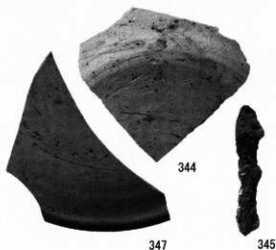
ビット 696・701・743



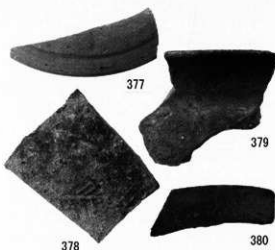
ビット 276



ビット 704



ビット 279・291



ビット 707・719・723



374



374

ビット 701

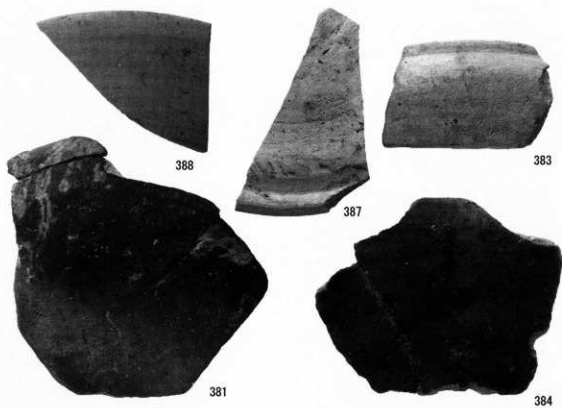


382

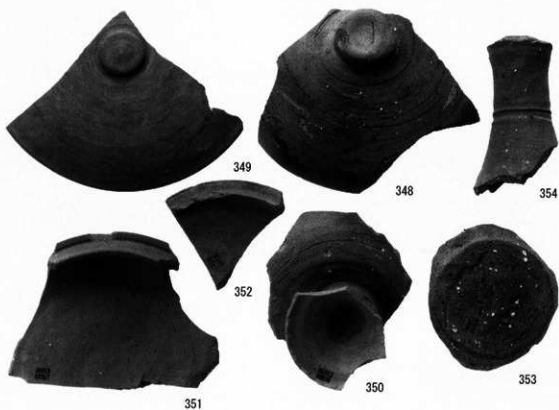


382

ビット 725



ピット 725・726



第7面下層



404

第2面土坑 226



394

第1面溝 14



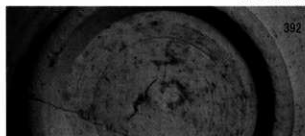
392

第1面下層



393

第1面下層



392

第1面下層



390



389



391

第1面溝 201・井戸 214



左図中央拡大



395



396

第4面直上・第5面直上



405

第2面下層



397



398

第1面下層、第3面下層



407



406

第2面下層



402



403

第3面下層



410



408



411

第2面下層



399



400



401

第3面下層



409

第2面下層

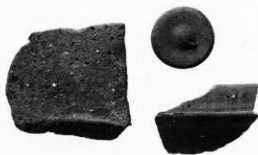


第4面溝 224・土坑 220



421

第1面溝 16

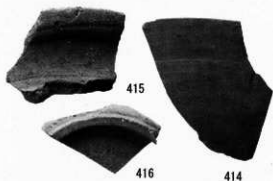


第3面下層

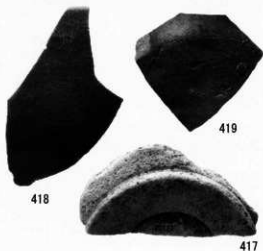


420

第1面溝 2



第3面直上



第2面下層

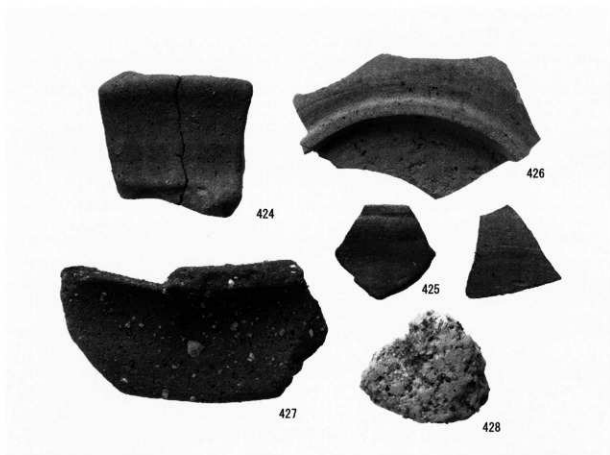


423

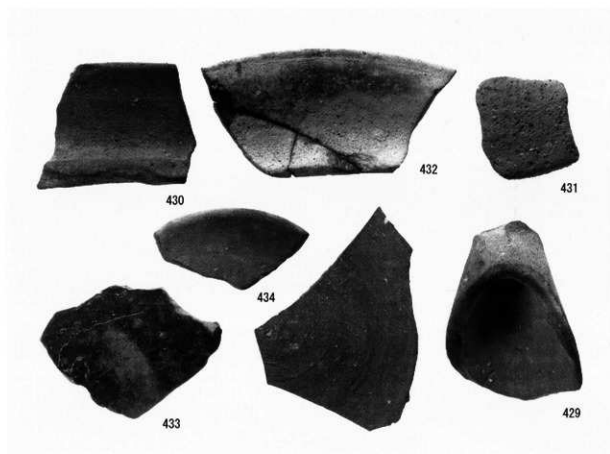


422

第1面溝 2



地山直上包含層



床土・包含層

